北支



秋

Autumn in Peking



野菊薫る門

朝方の胡同（ロヂ）で太々（オカミサン）が蟹を三つ手にとつてガヤガヤ饒舌つてゐた。蟹賣のおやぢは三毛錢（サンジツセン）からゆづらない。太々はまだイキのよい蟹を蒲包の中に投出してプイと門の中に消えてしまうた。どつこいしよとおやぢは又悠々と歩き出しました。蒲包の中でゴソゴソ無腸公子は怒つてゐるに違ひない。まさに秋深き北京風景である

蟹の種類はおよそ十二種と云ふのは北京人の云ふことで學問上では恐らくもつと多種類に上るであらう。それはともかく秋の聲きく時蟹が美味くなることに間違ひはない。七月（陰暦）は褌の尖つた卽ち雄蟹が美味い、八月は圓い褌の雌蟹が美味いと云ふ食道樂の言葉だ

子持蟹の卵を蟹黃と稱して珍重するのは日本と同じであるが、料理の仕方ではとても支那料理の比ではあるまい。例へば蟹肉を餃子（饅頭）の餡に使つたり、生蟹を酒漬にした醉蟹、その他街の飯館（料理屋）に行つても二通り三通りの料理は普通に出す。殊に前記醉蟹は酒の肴の尤なるもので左黨の垂涎するところである

北京の蟹料理と云へば前門外の正陽樓と云ふ程、それは邦人間、旅行者の間にも知られてゐるが、あの小さな木槌を持つてコツコツ喰べる風趣は烤羊肉（ヂンギスカン料理）の壯快味と好一對であらう

☆

菊有黃花蟹正肥で左手に蟹、右手に盃、菊を眺めて詩を詠むとは昔北京の風流人が云うた。陶淵明が菊を東籬の下に採り、悠然南山を見ると詠んのはだいかにも美しいが、彼も亦蟹味噌を口角にくつつけてゐたかも知れません。日本人が詩吟をすれば千篇一律、悲憤慷慨の調にやるのは子供らしい、情緒こまやかな戀歌を臺なしにする滑稽さ。支那認識の淺さを思ふべし。但し知らぬは佛であらう、日本は儒教にしろ優れた點だけ取入れて消化して來たのですから……

脫線したが、菊は衆草に伍せず、支那でも高貴の花とします。菊を大別して



秋の味覺をそそる川蟹

眞菊と野菊とあり、前者は嚙んで甘く後者は苦い、と云ふのはどうであらうか、色からすると黄を正として白これに次ぐと云ふ、これはすべて黄色を貴ぶ傳統によるのでせう

とにかく北京の秋を飾る花の王者は何と云つても菊である。九月から十月、十一月にかけて咲盛る菊の花は、まづ隆福寺、護國寺、中央公園等々、清香馥郁として美しい。その種類無慮三百餘種と云はれる程で、好者も亦少くない。吃菊と稱して菊の葉や花を食ふのは日本と同じく白に限る。但し是亦利用の範圍廣く、或は菓子に使ひ、酒に使ひます。九月九日重陽節は重陽花糕に菊の葉を貼りまた菊の花を薫じた菊花酒を作ります。これを携へて高所に登る慣習あり、之を登高と云ふ。秋は味覺に！　とは老北京人だけに限るまいが、その凝り樣はやはり北京でありませう

大行山脈



山西省東南部を走る黄土の山地

Aerial View of the Tai Hong Shan Range



五臺山 1



喇嘛僧の奏樂——羅睺寺にて——



塔院寺の白塔

山西、河北の省境に連る五臺山脈中の東臺、南臺、西臺、北臺、中臺の五つの高峰を總稱して五臺山といふ

中國に佛教の傳來した漢の明帝の代に印度僧摩騰、竺法蘭の二僧が天眼通を以て五臺山は華嚴經所說の清涼山―五臺山は別名清涼山とも稱される―であることを知り帝に奏して伽藍建立を乞ひ現在の顯通寺を建てたのである。爾來佛教の轉變の嵐と共に盛衰の道を辿つたが、其の聖地たるの名は失はなかつた

又元の世祖は喇嘛教を元の國教と定めたのでこの頃より喇嘛は五臺に進出し廟も續々此處に建てられ佛教を凌ぐ狀態となつた。清朝の最盛期には約三百六十餘の寺院があつたが現在では百七十餘寺となり、佛教は青廟といひ、喇嘛を黃廟といつて仲よく甍を列べてゐる

五臺山と日本との關係は、記錄によれば元和年間に日本僧靈仙が入山したのを初めとして相當多數に上る。弘法大師、傳教大師が入山したといふ說もある

五臺山佛教は禪宗臨濟宗であり五臺喇嘛教は密教の一派であり日本眞言宗と系統を同じくする。これらの宗教が經典となつて日本に傳來し鎌倉時代、室町時代の宗教および文化に及ぼした影響は非常に大きい

The World-Famous Wu Tai Shan in Shanh Si



喇嘛の墓

五臺山寺院生活の資源は寺院所有の畑よりの所得と參拜者其の他の布施であるが今次事變により共產第八路軍の前進根據地となりその蹂躪するところとなつたが、一昨年十月皇軍駐屯以來治安も恢復し滿洲、蒙古からの參詣者も數を增しつゝあり、五臺山六月大會も復活された

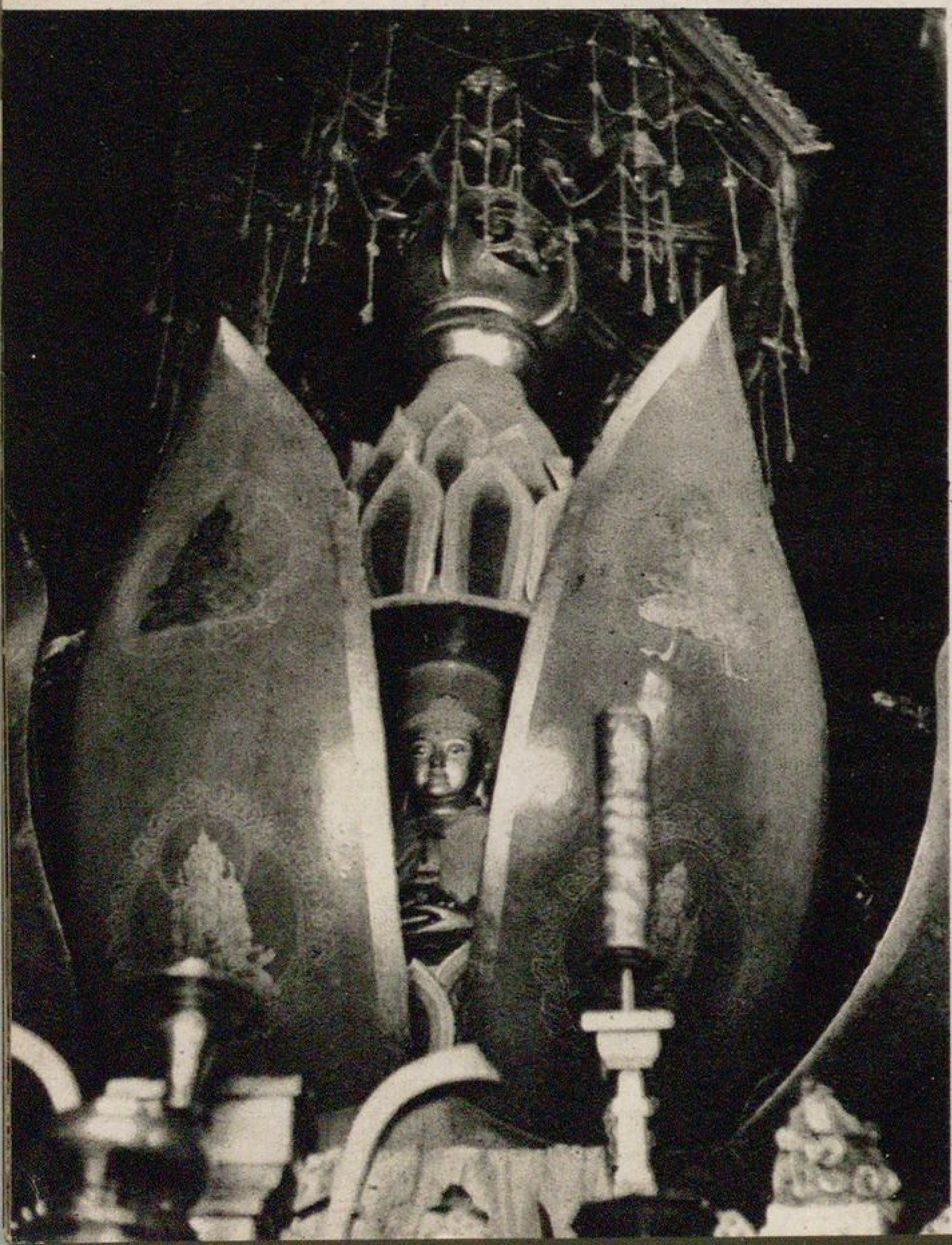
大會は陰曆六月一日から同三十日まで黃廟菩薩頂を中心として行はれるがこの間支那全土は勿論滿蒙及び支那邊區からも善男善女が押寄せるほか北京天津其の他からも各種の商人が入り込み喇嘛寺の多く集る中臺を中心に雜閙を呈する。參拜者は東西八里、南北二十五里の峨々たる山の間に點在する寺院を巡拜する。又日本側の援助により映畫、演劇が行はれ、交通の不便を克服して華北交通、蒙疆バスの自動車定期交通が行はれた

（詳細は「北支」十月號の「五臺山由來記」を參照されたし）

五臺山 2



顯通寺の銅殿



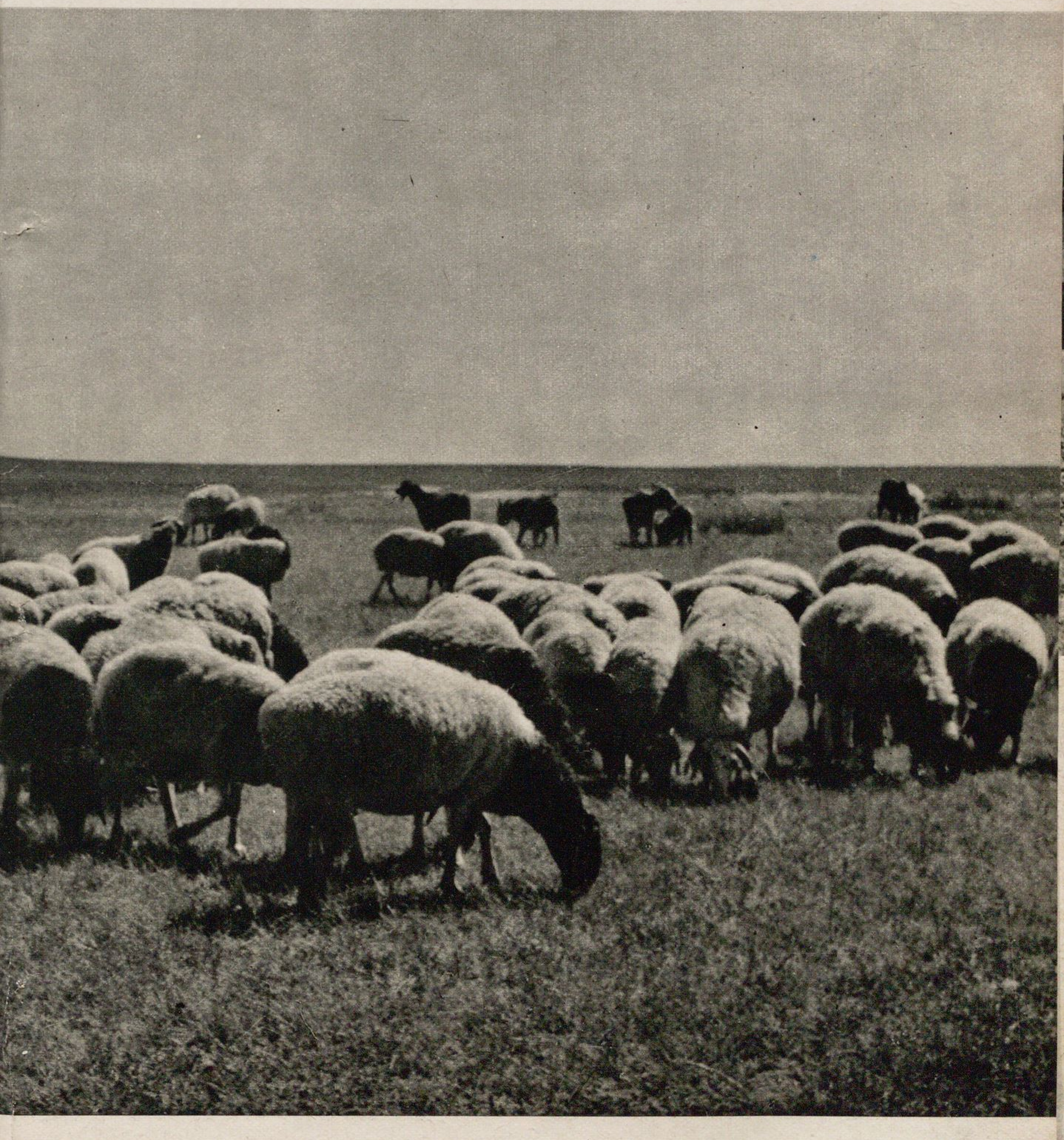
羅睺寺の開花佛

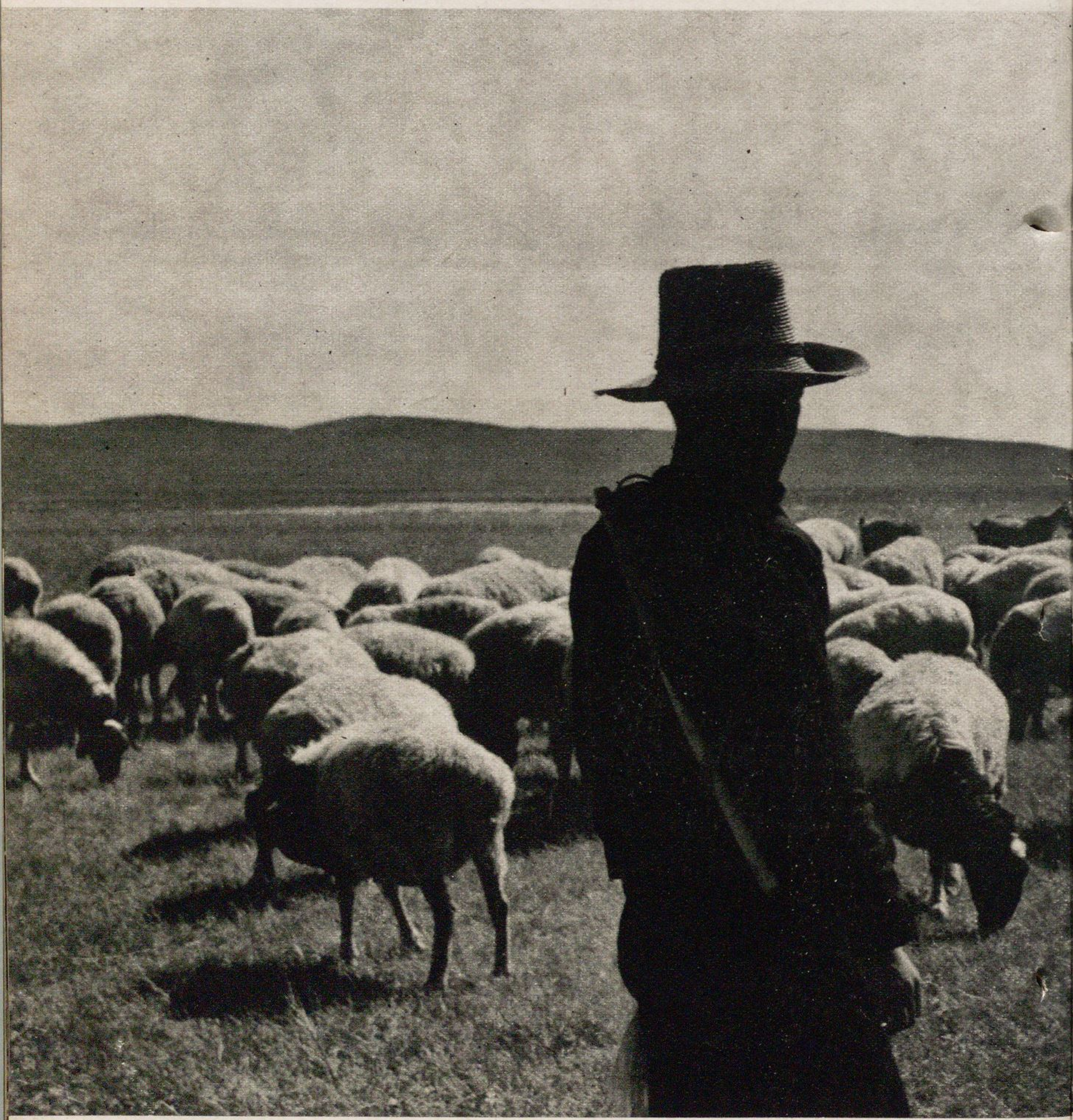


金閣山嶺の山道にある道しるべの佛像

秋 の 古 蒙

Grazing Sheep, Mengchiang





張北にて

龍煙鐵鑛

北支の鐵鑛埋藏量は全支の四六%强を占めてゐる

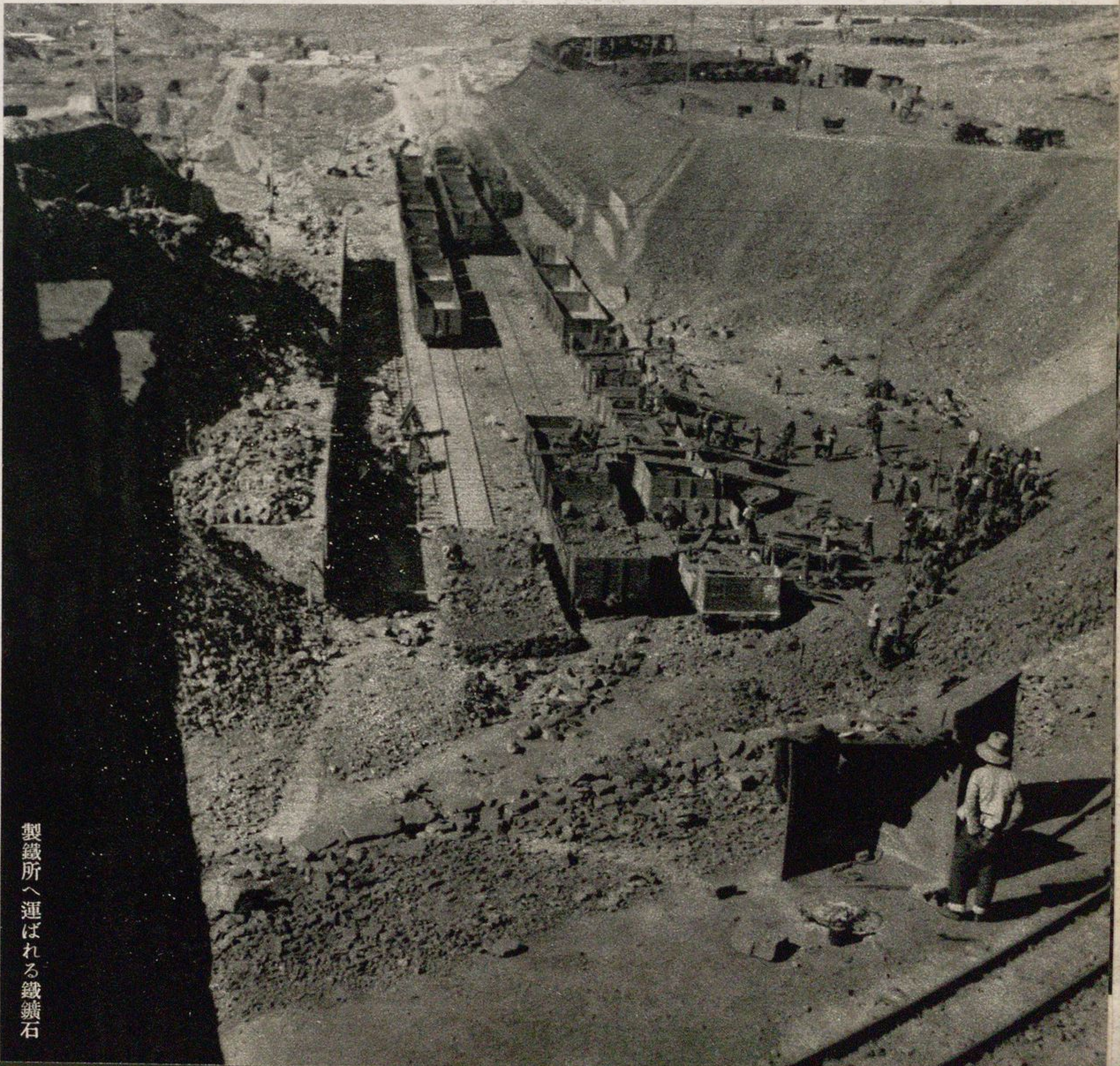
これを省別にみれば察哈爾省は全支の二八%以上で第一位、河北省がこれに次ぎ第二位となつてゐる

有名な龍煙鐵鑛は蒙疆・察哈爾盟の宣化縣煙筒山―龍家堡及び龍關縣麻峪口の鑛區に亙る含有率五〇%以上の赤鐵鑛で支那に於ける最も優秀な鐵鑛資源の一つと云はれてゐる

龍煙鐵鑛が世に紹介されたのは二十數年前で政府鑛業顧問アンダーソン等の調査により有望な事が確かめられた

一九一九年には官民合辧の龍煙鐵鑛公司が設立せられたのであるが、第一次歐洲大戰後の世界經濟恐慌から鐵價の暴落に見舞はれて經營難に陷り、加ふるに軍閥土匪の横行・內亂の勃發等政治的不安は遂に資金難を招來し、日英支合作による開發工作・冀察政務委員會の國營提唱等複雜な政治的・國際的關係の錯綜裡に今次事變を迎へたのである。事變後早くも成立をみた察南自治政府は蒙疆聯合委員會管理の下に興中公司をして之が委託經營をなさしめてゐたが、昭和十四年七月龍煙鐵鑛株式會社の設立をみ、愈々日本の鐵鑛アウタルキーの一翼として、本格的開發の第一步を踏み出したのである

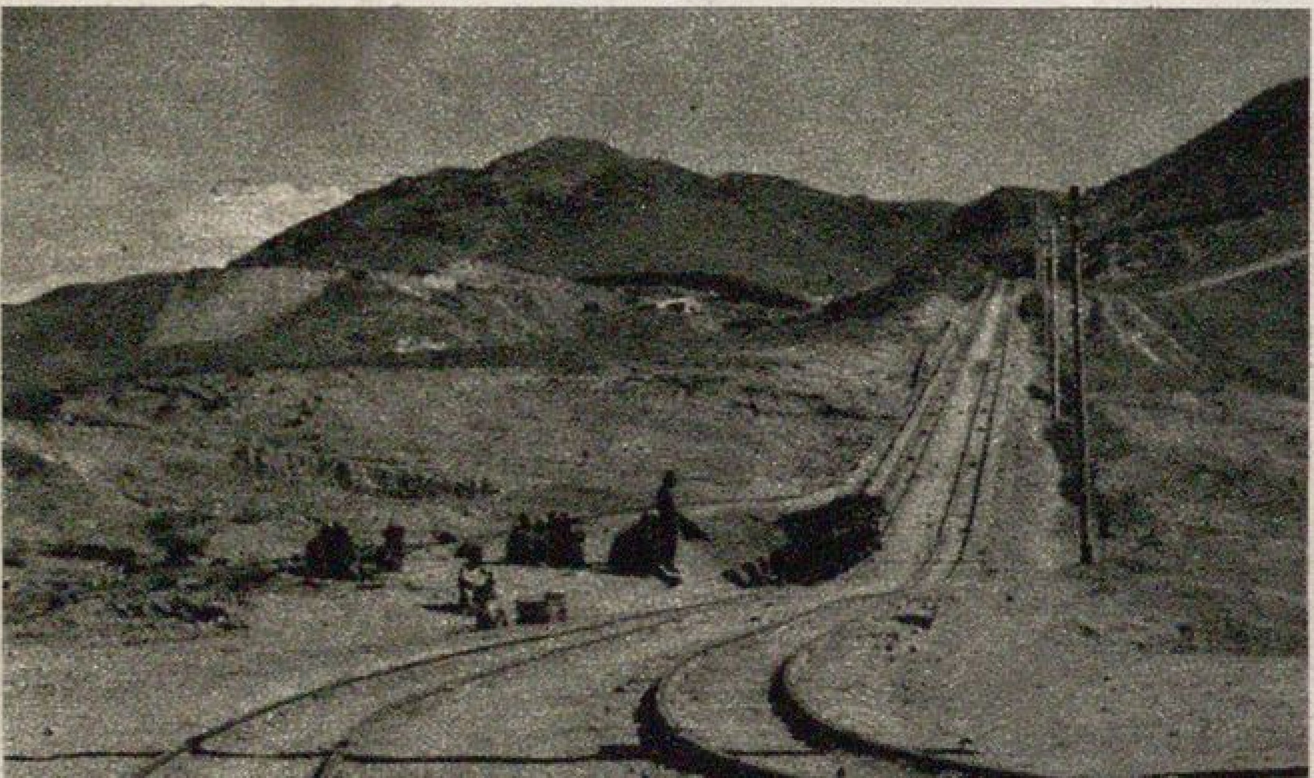
原鑛は北京近郊石景山製鐵所で現地精錬せられるほか內地の日鐵・鶴見の各製鐵所へ送られてゐる



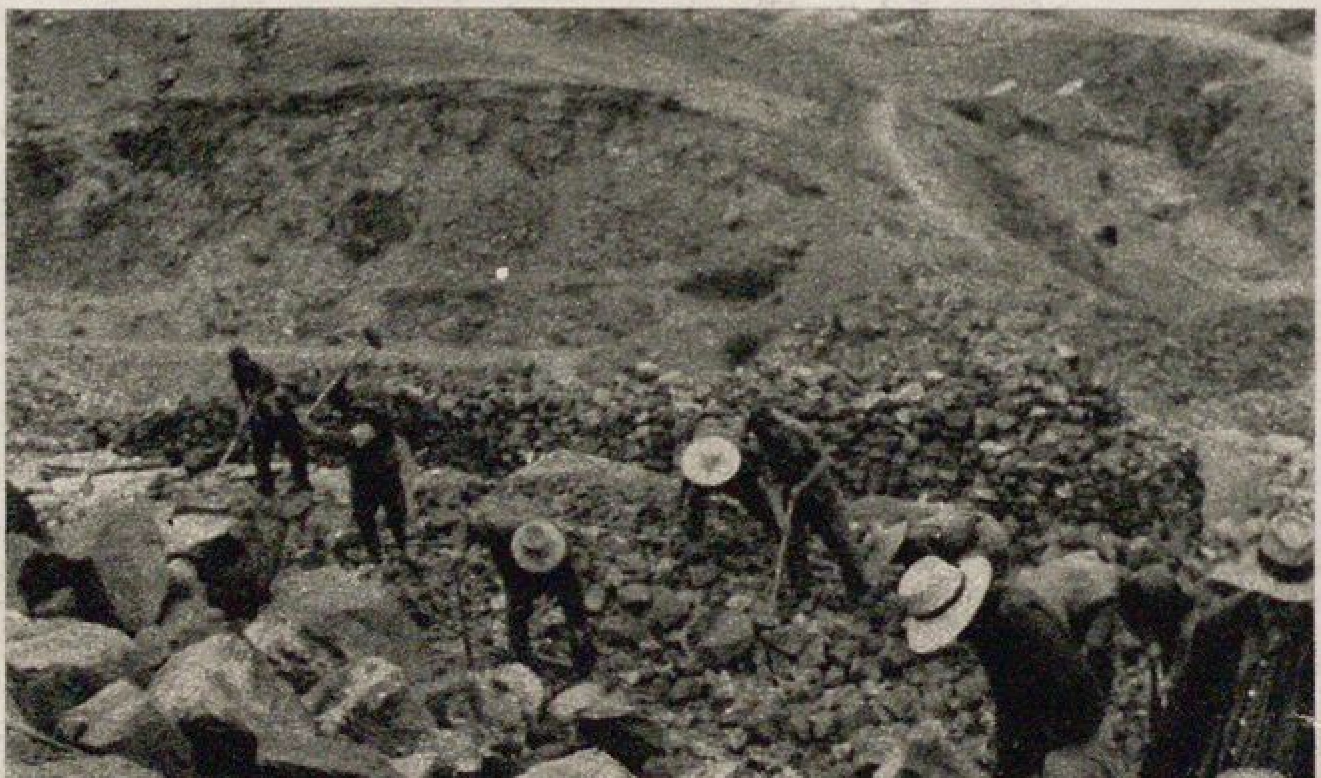
製鐵所へ運ばれる鐵鑛石



鐵索にて運ばれてくる鐵鑛石——積込場——



露天採鑛場より鑛石を運ぶインクライン



打碎かれる原鑛石——煙筒山の露天掘——

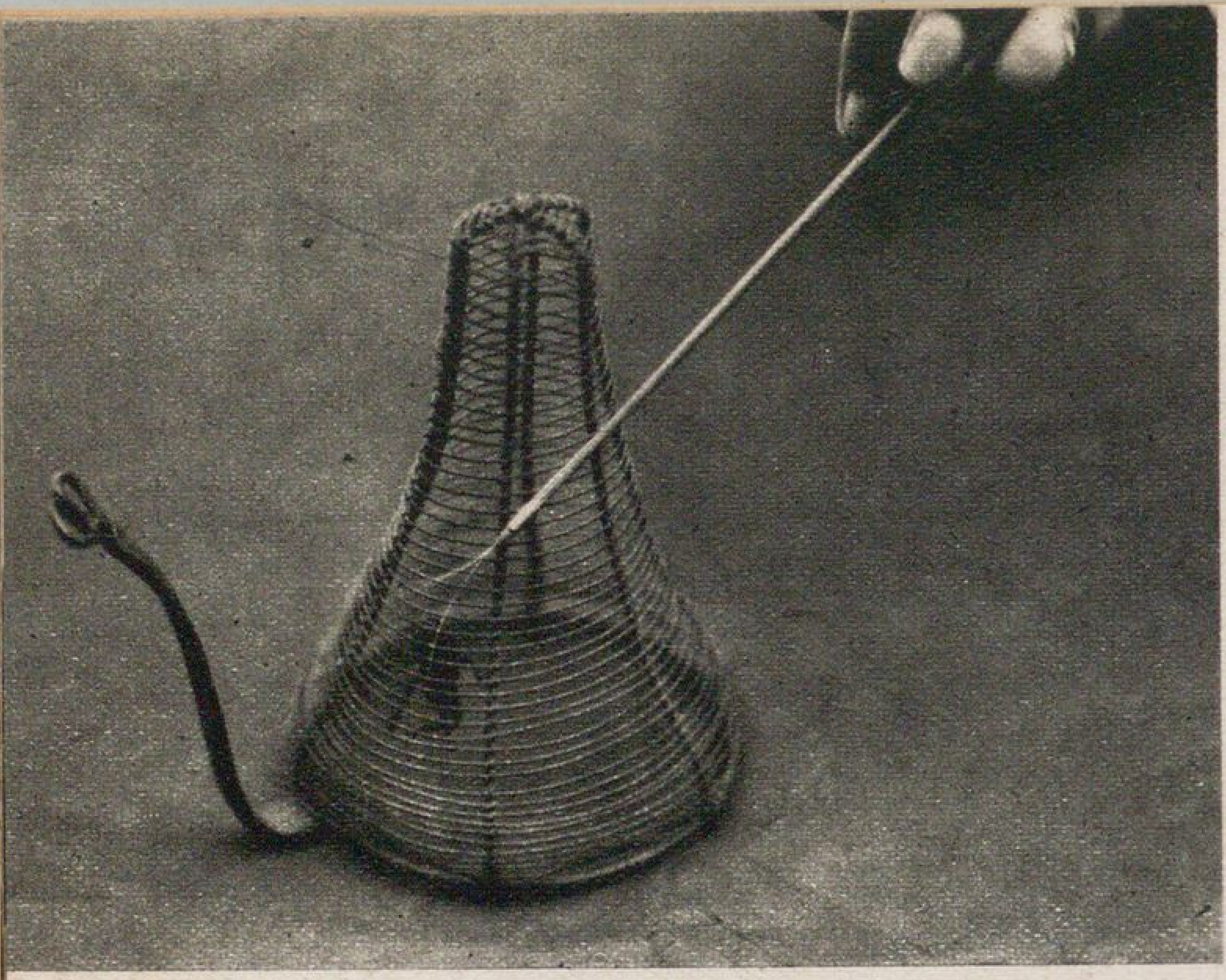


路傍のこほろぎを賣る店

Cricket

こほろぎ

北京の秋は爽涼そのものと云ふべくシンとした靜寂が巷にこもる。その中で蟲の音がひよいと耳につく程あはれなものはない。王府井の散歩道路や東安市場に、隆福寺や護國寺の廟市に蟲賣が出初めるのは八月も半過ぎ。蟲籠は粗末な農夫の手作りのものを賣出すのが野趣に富んで嬉しいけれど、北京人の凝り様はそれだけでは納まらない。おほかた小さなブリキ製か素燒の壺、又は瓢簞細工の洒落れた容器を賣るさて鳴蟲の中でも王者の格はこほろぎ（蛐蛐兒（チユイチユアル））であらう。これに二種類あつて、秋になつてよく喧嘩するのは熱子（ロオツ）、冬になつてよく鳴くのは冷子（ロンツ）と云ふ。宋の大臣賈似道はこほろぎ賭博に耽溺して國を亡ぼしたさうである鬪蟋蟀（こほろぎ賭博）の盛なのは江南の無錫でここは昔有名な米の集散地であつたから米商人が大金を賭けたらしい。この鬪蟋蟀をやる時は先づ體重を量つて同級の蟲と勝負をさせる。揃つたら小さな箱に入れ、小さな筆の穗先で鼻先を逆撫でしてやると、こほろぎは大いに怒つて決鬪するのである。それは正々堂々として一度鰐したら相手を食つたりはしない。それに大金をかけるので清朝時代には一匹百圓、二百圓の蟋蟀も珍しくなかつたさうだ此頃は高くとも十圓、二十圓で鳴聲を樂しむのが主である。多になつてよく鳴く冷子は風流人が机の前や窓際に置く、さうして水をやつたり餌をやつたり、寒い時は懷に抱いて、來客と閑談するのである。



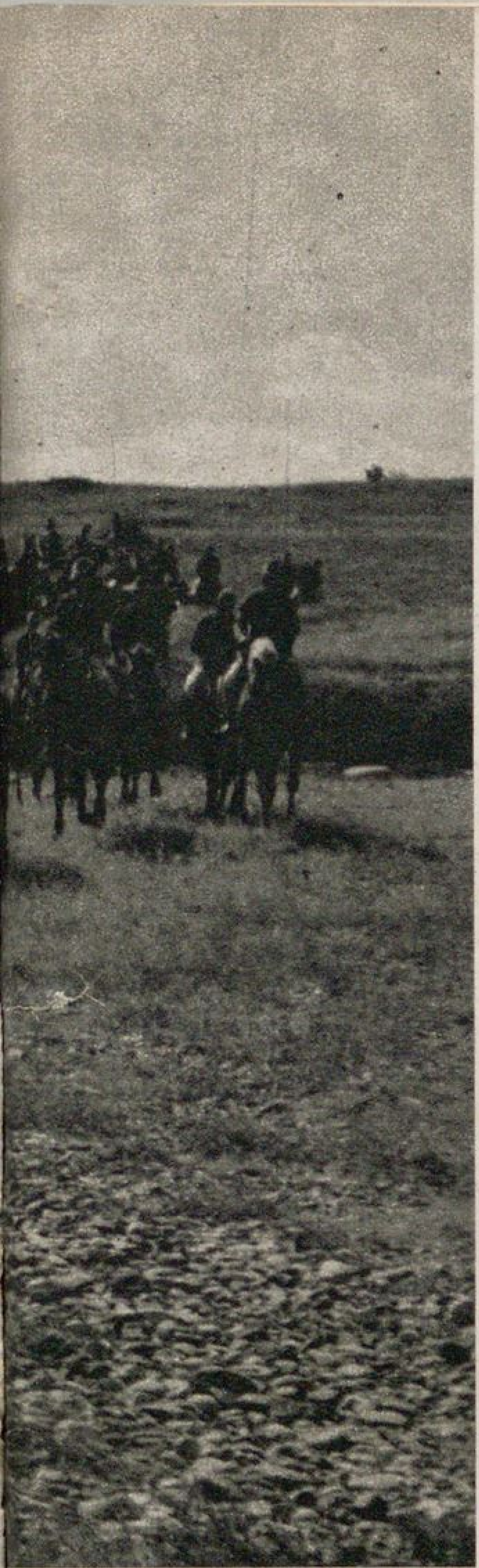
試合の前に竹の先に鼠の髭をつけた棒で昂奮させる



こほろぎをいれる土器



手前はこほろぎをいれる紙包



軍事教練——北京——





ブラス・バンド——張家口——

華北交通

鐵道青年隊

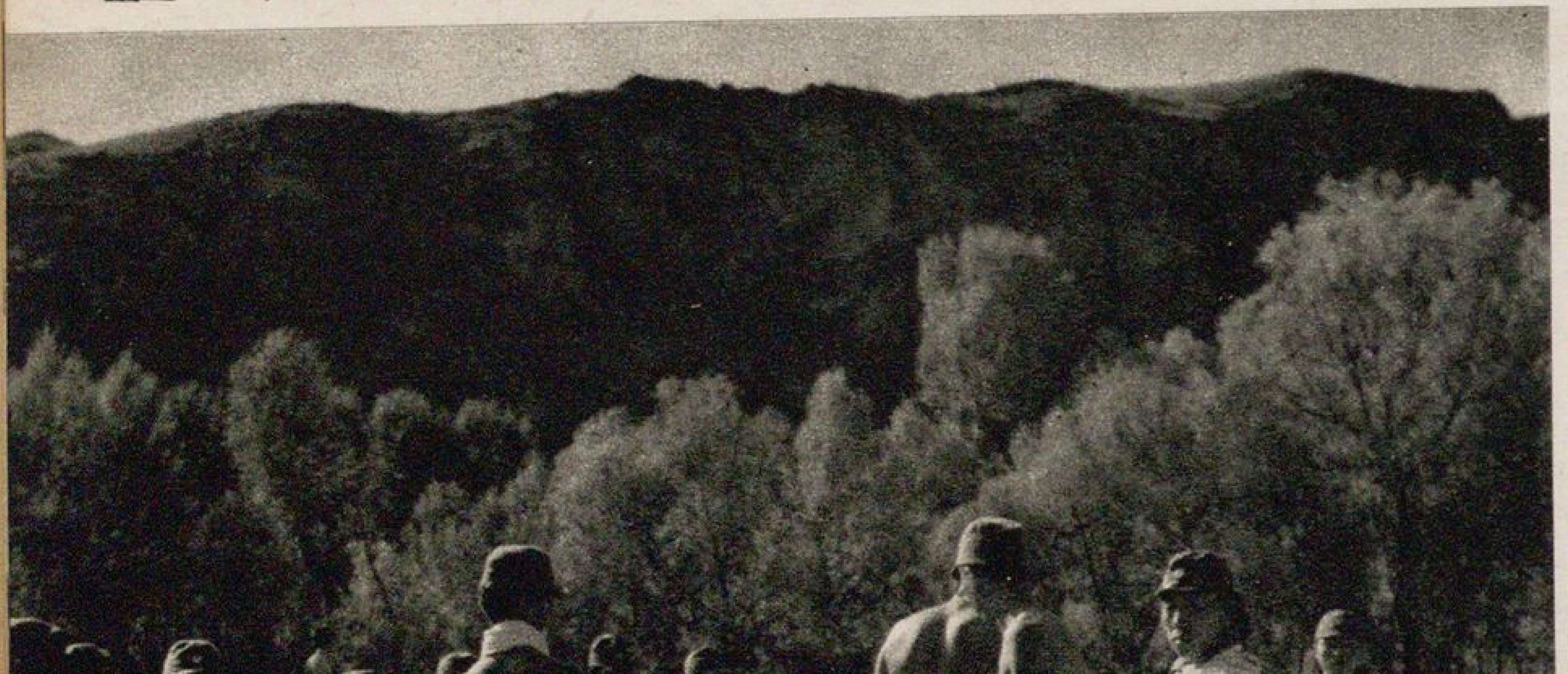
新大陸の鐵道は政治、經濟、文化、産業の大動脈であり、軍事的には特に一つの要塞線をなし、思想的にもまた防共ルートとしての、最も重大な役割をもつてゐる。だからこれらの鐵道運營の全責任を負ふ華北交通會社では、日人三萬從業員の中から二十五歳以下の獨身者を網羅して鐵道青年隊を結成し、專ら社業躍進に對する中心力・推進力たらしめるやう努めてゐる。昨年七月誕生したばかりであるがすでに北京の本社をはじめ天津、濟南、太原、張家口、開封、北京の大鐵路局、中央鐵路學院などをふくめて三十五箇大隊、これに東京事務所の獨立中隊を加ふれば、隊員正に六千人に垂んとする。隊員はすべて寫眞のやうに、華北交通マーク入りの制服を着け社業の餘暇には各種の講演會や時局研究會などに出席、更に現役兵同樣の猛烈な軍事訓練を受け、光榮ある新大陸建設の礎石たるべく流汗鍛錬の實をあげつゝある

いま日本內地では新體制の推進と共に青年各層の再編成が論議されてゐるが、既に發足を見てゐる現地のこれら青年の動向は大いに注目すべきであらう

Railway Youngmen's Corps



支那事變發生の地一文字山へ乘馬行軍——豐臺——



勤勞訓練——張家口——





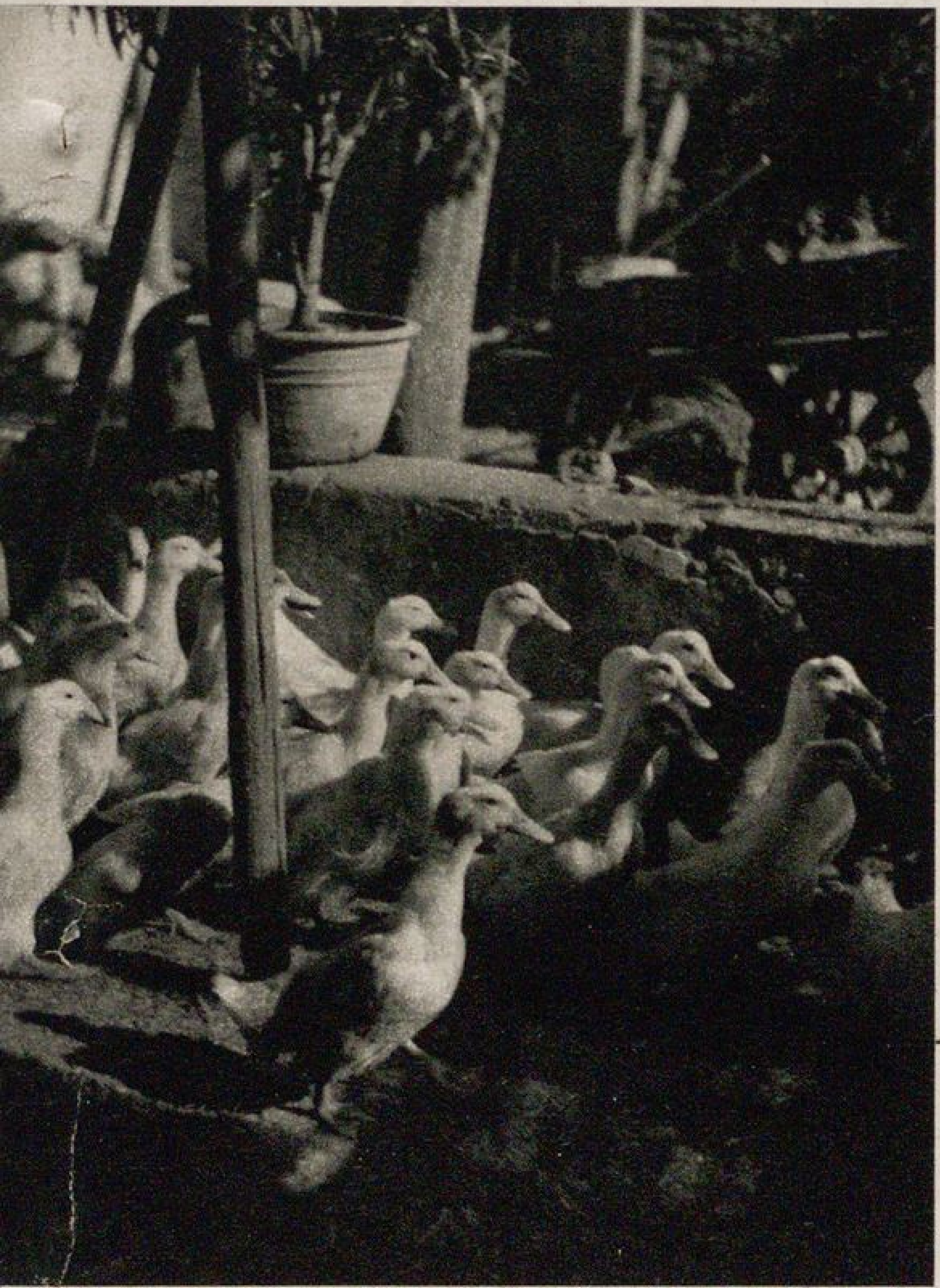
大同所見

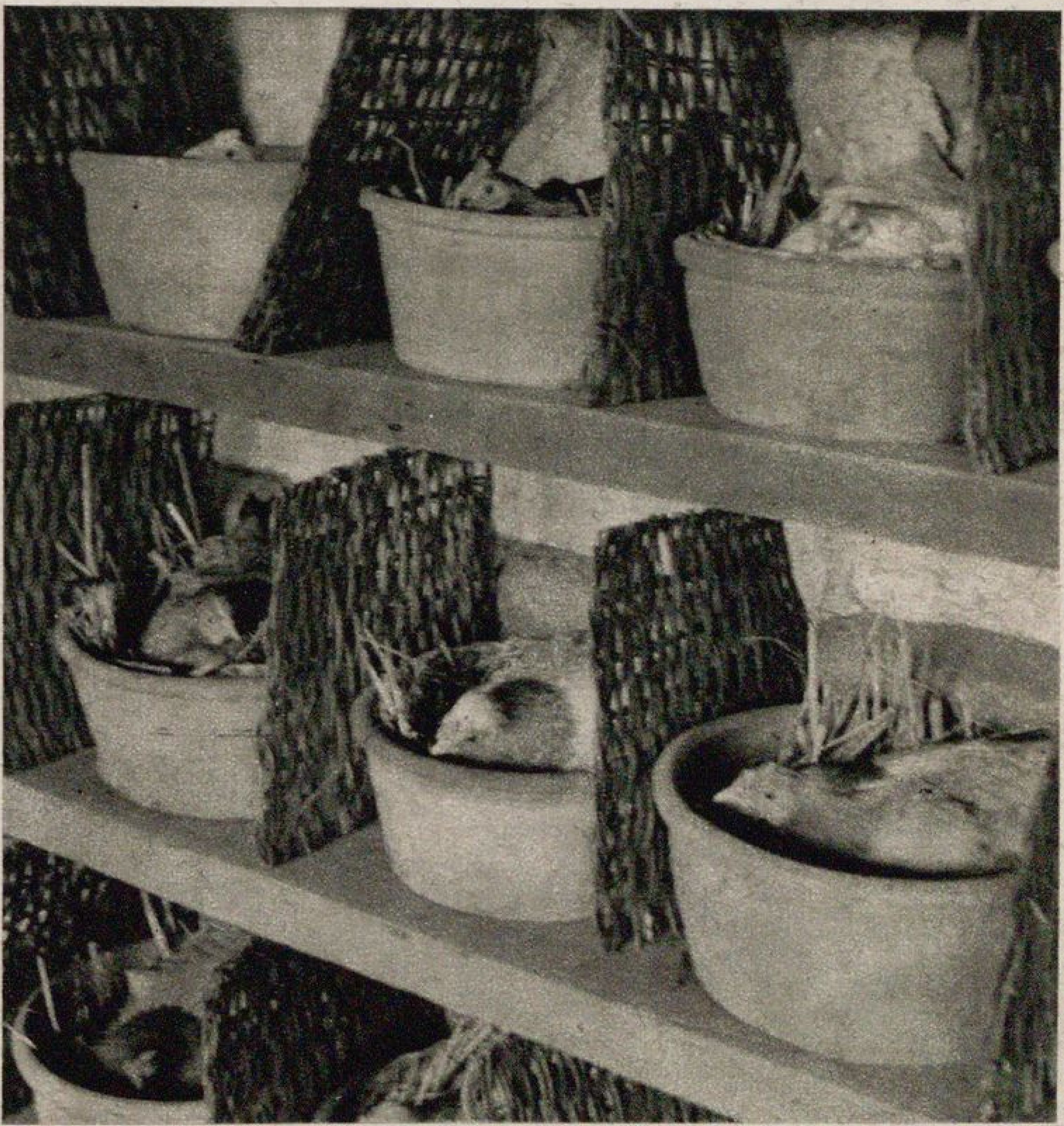


Lense-Eye Views of Tatung



Farm





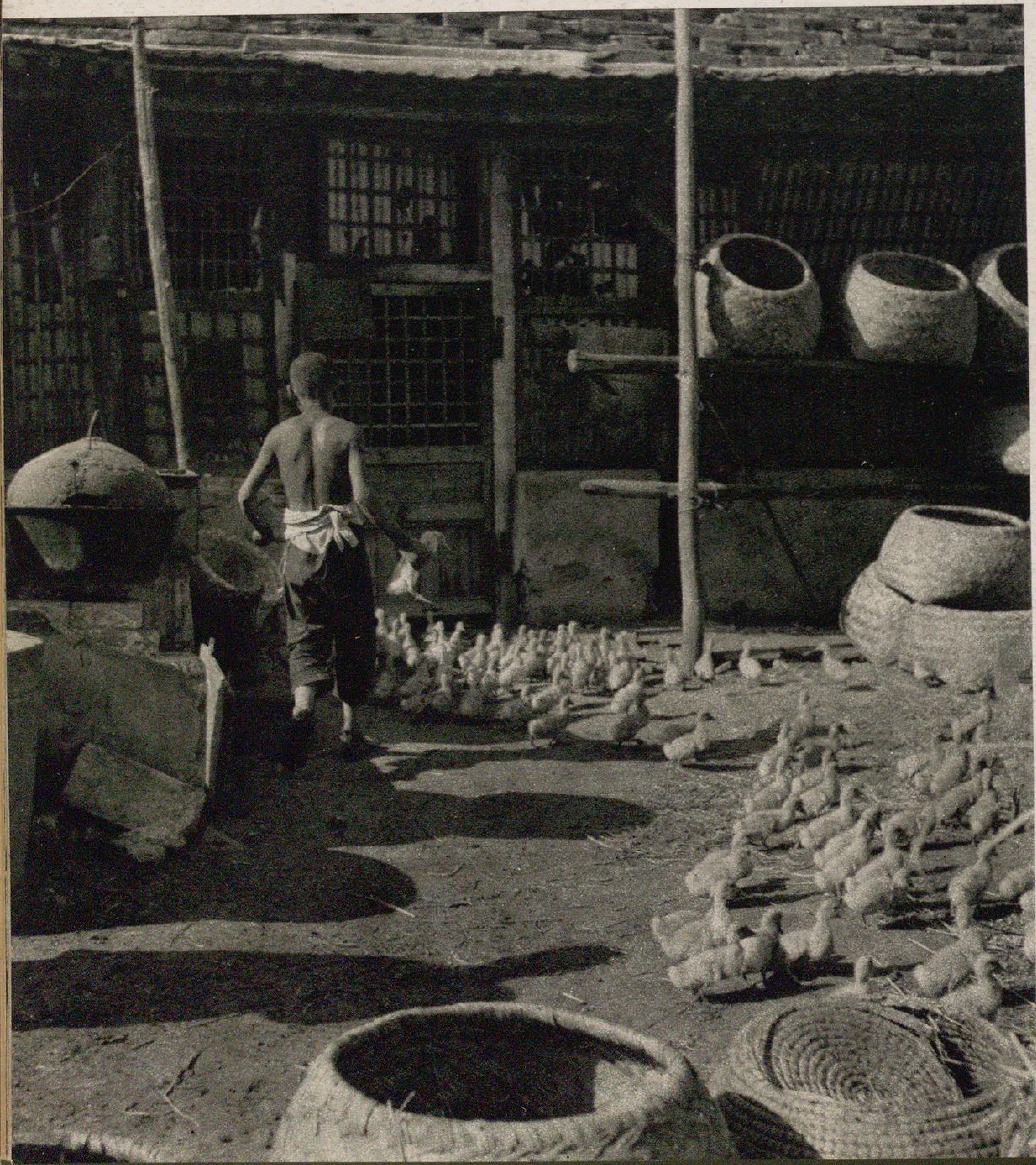
→家鴨の卵を孵へす鷄

鴨子房

北京鴨子の名は全支に高く好食家の味覺をそゝり、その飼育は北京近郊農村の大事な副業となつてゐる。どんな小さな沼澤、河川でも眞白い家鴨の浮んでゐないところはない

北京近郊の鴨子場は四、五十軒、その飼育數は二十萬を下るまい。又その飼育法も——暗い泥小屋に押込めて運動を禁止し皮下脂肪を肥やしたり、葦の籠の中に入れてサナギや高粱團子を喰はしたり——色々とその肥育法が行はれてゐる

又北京鴨子の特色は三、四箇月の短期間で成育し、四季を通じ味が變らないこと、羽毛は彈力性に富み羽布團をつくるのに一番適してゐるといはれてゐるので、これに目をつけた新民會勸農科では明春一萬羽ぐらゐ一度に孵化できる孵化器を設けて大量の雛を農村に送り、將來は國外にまでその輸出を圖らうと計畫中である



A Duck





栝樹

栝（クワツ）は俗に白皮松、白骨松、蛇皮松などと呼ばれてゐる。三葉松で發芽後二十年位經ると樹皮より蠟白の分泌物を出し幹、枝が白色となる支那の西北部の特産で、四川省、山西省には野生のものがみられる。北京一帶の寺廟、宮殿には栽培されたものが非常に多く、玉泉山には樹齢八百年を經たものがある

Silver Pine, (Pinus Bungeana)



北京北海公園にて

飴細工うり

飴を買ひ求める子供





籤引であてる



牛や蛇のならんだ棚

今でも日本の田舎に行つたらゐるか知ら、あの白飴をふくらして鷄なんか作り、さつさと赤や綠の彩りをしてくれる飴やのおぢさんは。ぷうと吹く頰ぺたと手ぎはよくつまんで行く樣子がとても印象的で異鄕に住む我等の鄕愁を呼び起すのである。それはおほかたお祭につきものでビイイと鳴る風船玉の風景にまじつてゐた

大體あれと同樣なのが支那大陸のあちこちにまだ殘つてゐると思へばよいでせうか。但しこの寫眞は舊都開封で見たもので、お祭に限らず街々を步く。御覽の通り作る動物はなかなか上手で種類が多く、それをサイコロ式のばくちにして賣るところはやはり射倖を好む國民らしくて面白い。（而も君子自重、公平交易などと勿體らしく書出してゐます）それは飴賣りだけでなく菓子や果物その他ちよつとした行商人が大抵クジ引でやるのだから別に珍しくもありません。日本ならば今は飴屋のおぢさんも紙芝居を携帶して國策の第一線に働くでせう。それ程日本は聖戰の前に總力を擧げてゐるのである。眞面目な國民性を思はずにゐられない

Wheat Gluten Vendors



城内風景・高粱を驢馬にのせて

古北口

Ku-Pei-Kou

長城の雄大な景觀を見るには、京包線入達嶺と京古線古北口に指を屈する。滿支國境の町古北口は長城の麓にあり潮河の清流を挾んで風光はすこぶる明媚である。長城の望樓に上ると市街はさながら箱庭のやう一望の中に收めることができる。この地は古來から北京――熱河及び北部蒙古への交通の要衝で、もと北門坡又は營城と稱し明の洪武十一年に二重の長城を利用して三角稜形の城塞が築かれ東・南・北に三門を設け堅壘を誇つたが現在は殆どその面影はない。併し自然の堅壘たることは贅言を要せぬところで昭和八年熱河聖戰に於て敵兵の頑強な抵抗をうけ、皇軍は決死隊を組織したほどである。今次事變後北京からこの地まで京古線が敷設され、滿洲國承德へ通ずる承古線との接續點となつた。この京古線は京山線と並んで滿支を結ぶ重要路線で軍事政治並に産業上に重大な意義を持つばかりでなく、祕境熱河と古都北京を結ぶ觀光ルートとしても將來を期待されてゐる



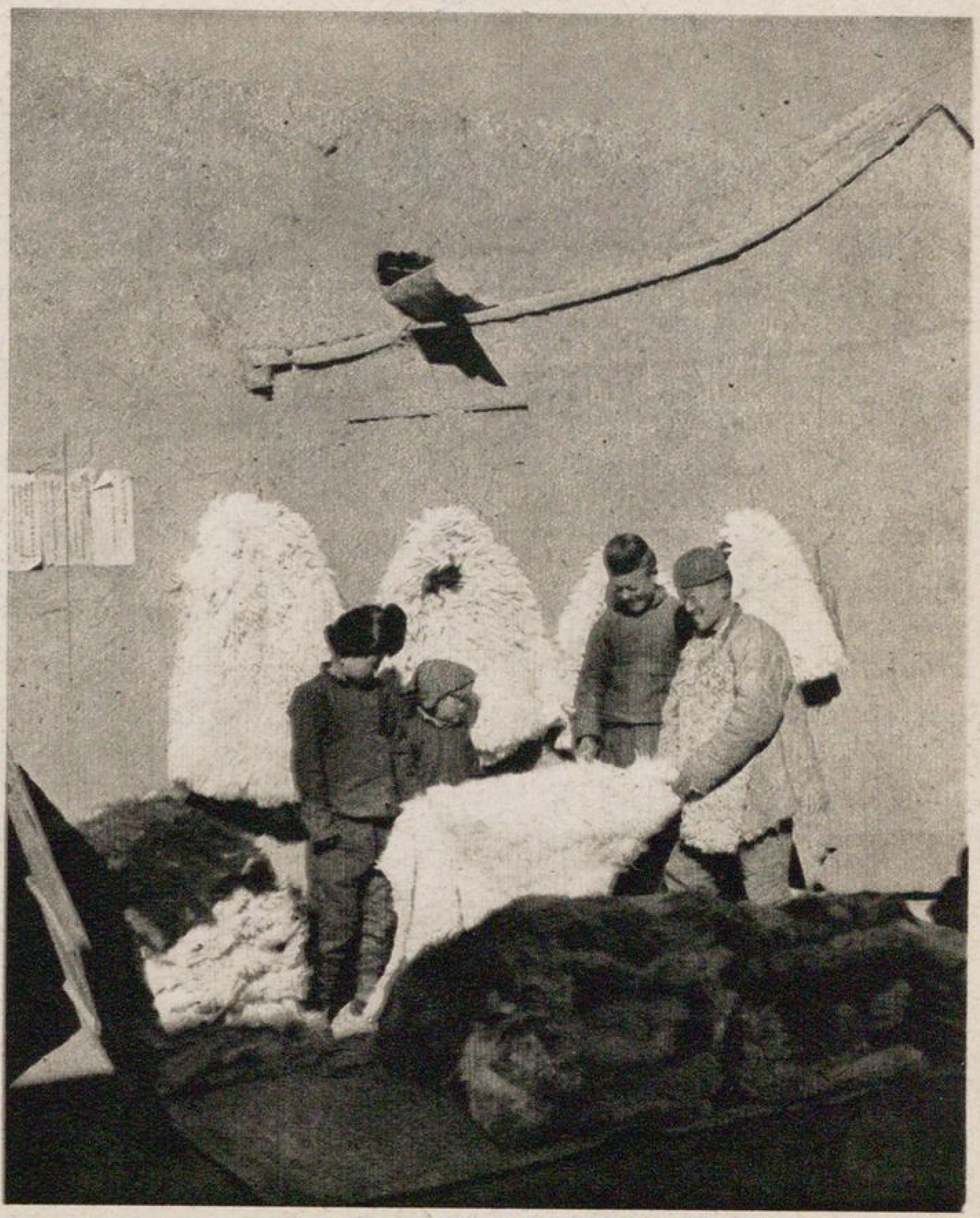
城内の切通し



露天に張られた店——歸化城（厚和）——

皮貨店

The Furrier in Mengchiang



泥の家の軒下にて——張北——

八月十五日（舊暦）——仲秋節が過ぎたら北支の氣溫はぐつと下る。北京の前門大街、天橋、天津の估衣街の店頭に眞白な羊皮、こげ茶色の狐皮が幾十幾百となくぶらりと吊下げられるのもこの季節からだ

毛皮は蒙古人や支那人達にとつて大切な冬の防寒衣服材料で、蒙古地方では木綿地より毛皮の方が低廉であり且つ手に入り易いので、まづしいくらしの洋車夫や苦力までが支那服の裏付に使用したり、そのまゝ着用したりする。毛皮の産出しない、吾國の人々には思ひもよらぬことだ

北支からの毛皮輸出高は二千三百萬圓北支總輸出高の一〇％を占めてゐる

北京の皮貨店の數だけでも百數十軒、中でも大柵欄の瑞蚨祥、乾泰正など數百萬圓の資産を有してゐる

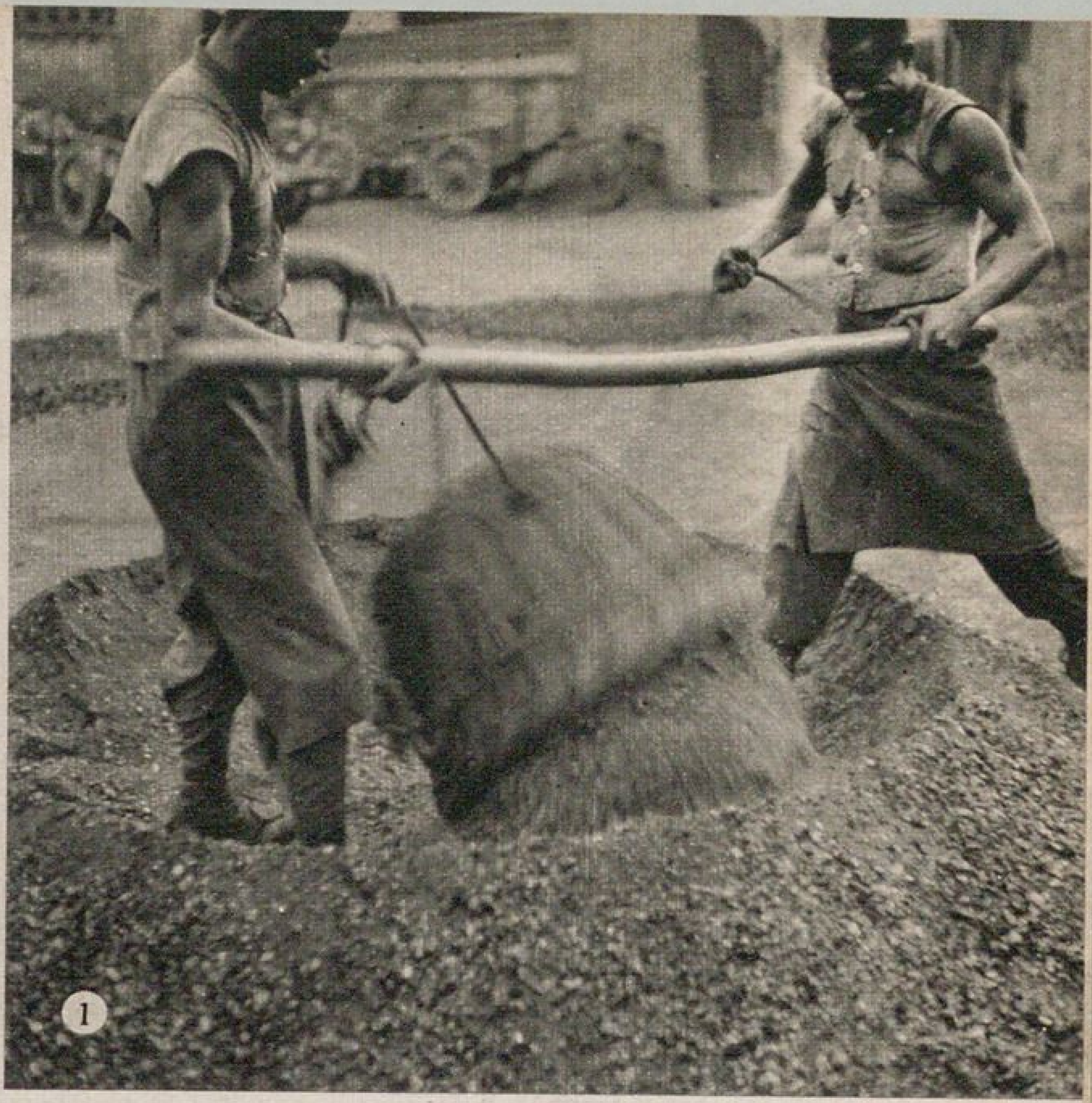
事變以來蒙古からの移入が杜絶してゐるので毛皮の數量も稍々減少してはゐるが瑞蚨祥などのストックはなかなか大したもの——狐、羊、狸、狼、テン、カハウソ、虎——値段もピンからキリまであつて四、五圓の狐の首卷から二萬圓もする貂のオーバーなど多種多樣である

中でも數量において王座を占めてゐるのはなんと云つても羊皮で、北京の市場に出廻るもの年二十萬枚を下らないと云はれる



煤球兒

Making Briquettes



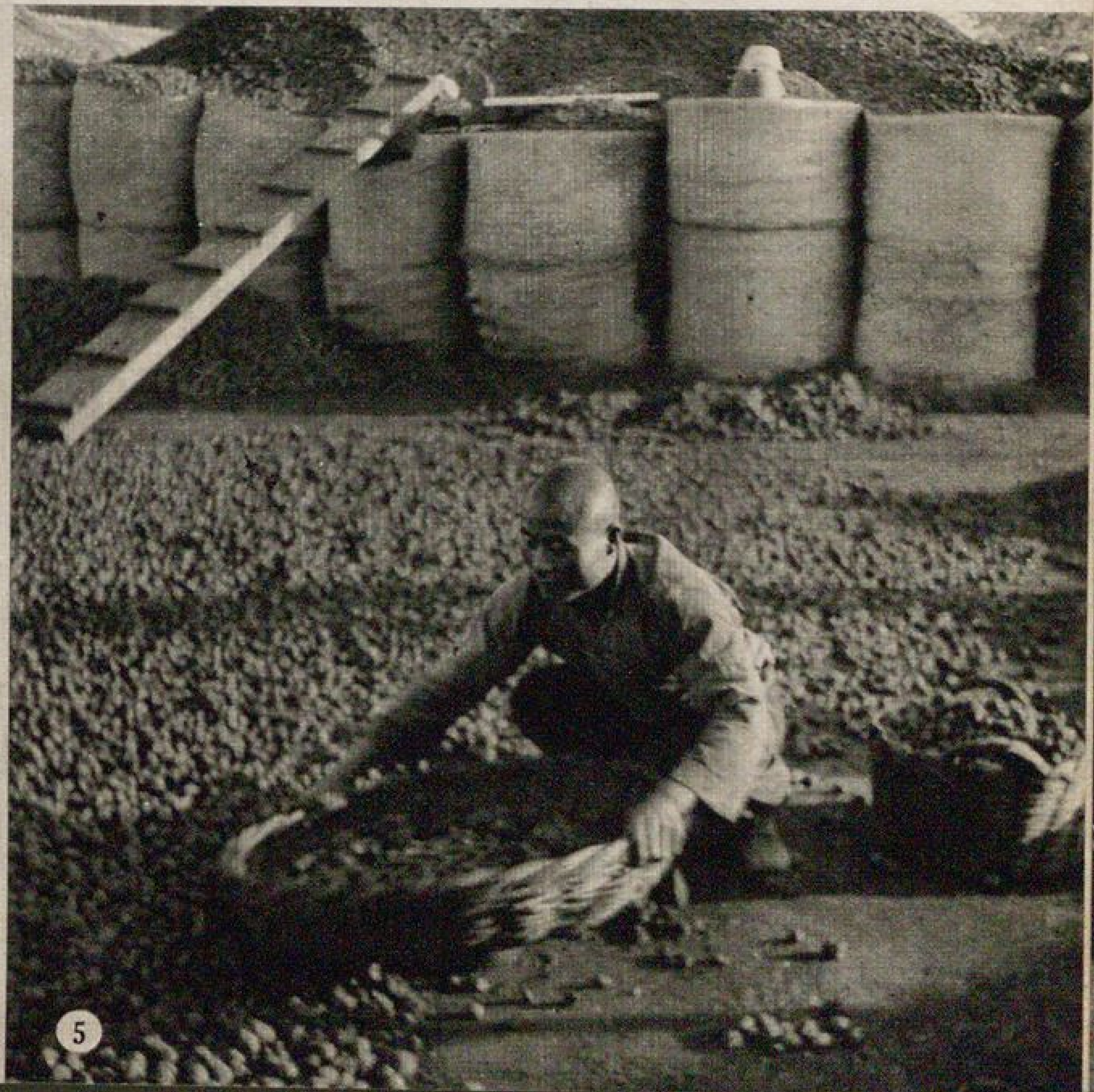
石炭の粉と粘土を水にて混ぜる



地面にながす



店鋪



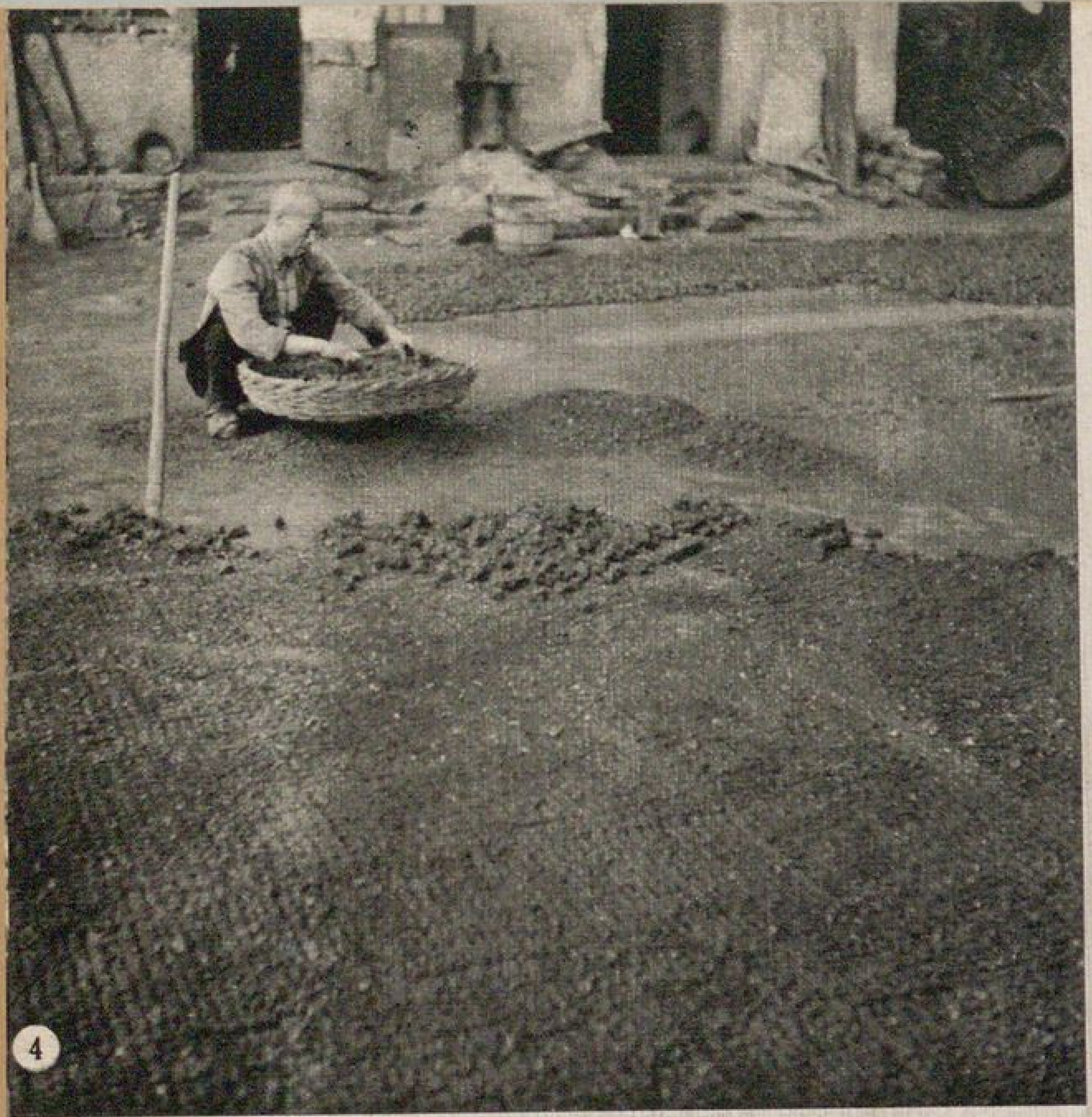
ざるで丸める



製品の乾燥



細かく砕く



ざるで丸める

支那では家庭燃料として煖房に炊事に煤球兒（メイチユル）が盛んにつかはれてゐる。煤は石炭の意、字の通り石炭の粉でつくつた團子で、大きさは丁度くるみ位であ る。日本の炭屋でたどんをつくるやうに市內の煤廠（石炭屋）で手工業的に製造されるが北京だけで年二十萬噸の無煙炭がこれに當てられてゐる。原料は北京近郊產の門頭溝炭及び房山炭等の無煙炭でその微粉に二、三割の黃土を混合せて水で練り二十粍位の厚さにのし餅のやうに伸しておし固める。これを二十粍角位の賽目型に切つて半乾きのとき篩ひにのせて轉がし丸くするのである。近頃は石炭の値上りから土の混入率が多くなり水酒ならぬ土球兒？が横行してゐるさうです

炊事用には煤球兒爐子といふ七輪を使ふのであるがこれは普通の日本式のものより細長くてそれ自體が幾分煙突の作用をするわけである。圓筒形の鐵板の內部に耐火保熱のため粘土を厚く塗つたものである

焔の色は如何にも有害なガスが出さうな青白い色であるが支那人は屋內で年中使つてゐて平氣である。點火後火力が相當強くなれば危險な一酸化炭素は燃えてしまふから木炭より安全だと云へるわけである

城外

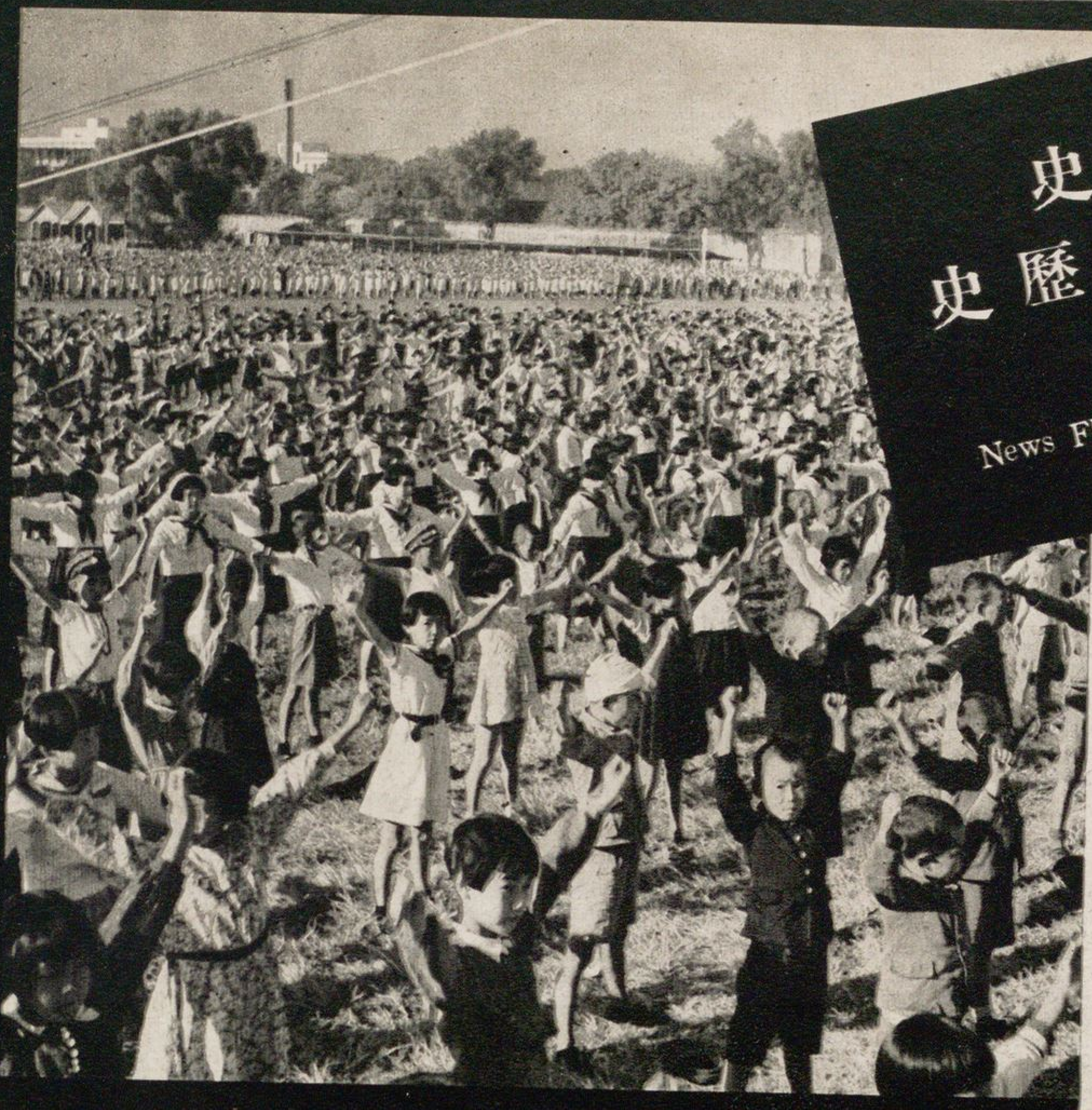


行商の一輪車



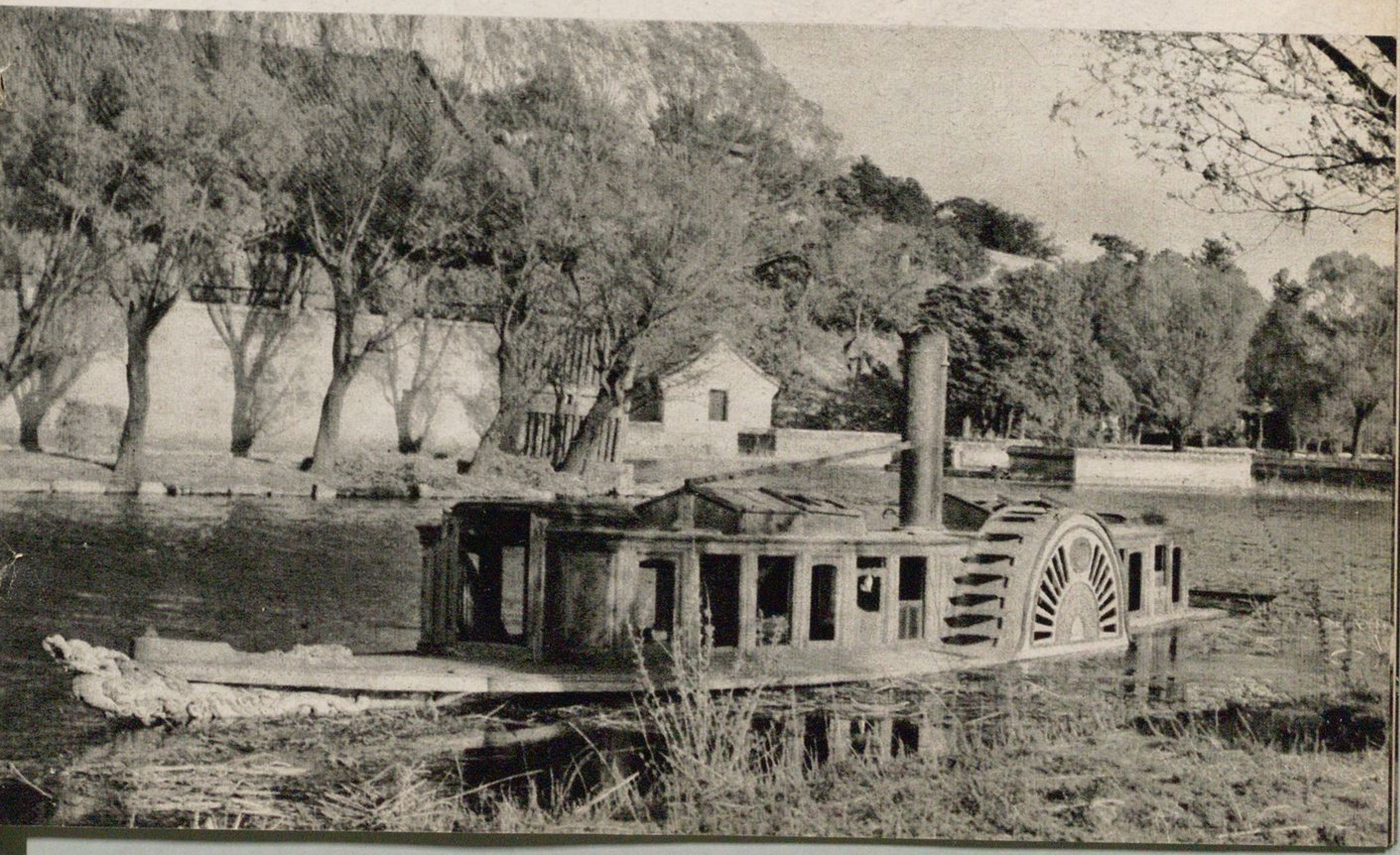
大きな歴史 小さな歴史

News Flashes from North China



三萬人のラヂオ體操

北京に於ける第四回心身動員大會は九月二十二日から二十九日迄實施された在留七萬邦人の中毎日三萬人以上出席し未明星をいただいてラヂオ體操する姿は前線日本人の意氣を大いに發揮し頗る大成功であつた





蘇へる西太后の永和號

北京萬壽山の有名な石舫の近くに古ぼけた遊覽船が半身を水中に沒してゐるがこれは永和號と言つて今から三十三年前わが國が當時としては十萬圓といふ巨額の工費で川崎造船所をして作らせ西太后に送つたものである。この度國際觀光局その他が主體となり三十三年振りに水中から陸に引き揚げ、綺麗に改裝して三笠艦のやうに觀光記念物として再現させることとなつた

孔子の生誕祭

九月二十八日は孔子の生誕日にあたりさきに國民政府より國祭日と制定された

この日孔子生誕の地、曲阜を初め全中國各地にて盛大に祭典が行はれた

新民會では、この機に、儒教の王道精神と道德宣揚のため、華北各地にて慶祝大會を催し多大の效果をあげた


無敵！國産第一位
ムッソリーニペン
スラスラ書けて
錆びず値の廉い
國産の逸品！
新生國策イリヂュウム白金ペン付
クラウン万年筆
流線型
書きよく
體裁優美
構造堅牢
MADE IN JAPAN
大阪 株式會社 澤井商店
北京 城壁と角樓



聖帝康熙

石橋丑雄

康熙十一年壬子の正月二十五日、雪こそ無けれ春まだ寒い亭午の日影を縫つて居庸關の溪道を上り行く八旗の旆旌に警護せられた黄輦は、前々日の朝まだき、太皇太后を奉じて北京を出發し、八達嶺の長城を越えて、赤城の溫泉へと急ぐ行幸の大行列であつた。これより先き、當年取つて十八歳の青年天子康熙皇帝は、上元の佳節も目出度く過ぎた二十二日の朝、慈寧宮に詣でて太皇太后の御機嫌を奉伺せられたところ、太后は、痼疾の療養に赤城の溫泉に浴して見度いと仰せ出されたのであつたが、祖母思ひのこの若い皇帝がまた何も彼も差し置いて扈從を申し出ることを考慮せられた太后は、特に皇帝には禁裡に留まつて政務を處理し國事を誤らぬ樣にとお諭しになつたけれども、孝心深い皇帝は奏して曰く

臣若不隨往侍奉。於心何安。至國家政事。已諭内閣。著聞一日。馳走一次。不至有誤。

と遂に翌朝の啓鑾には神武門から乗馬して輦輿に隨はれたのであつた。

南口の行宮を出發して間も無い頃から皇帝は馬を下りて徒歩で輦側に奉侍せられた。汗ばんだ額に强ひて笑顏を見せながら、喘ぐ呼吸に輦を扶けて八達嶺の嶮路を登る其の尊い姿を見られた太后は、再三乗馬する樣にと勸められたけれども皇帝は

此處道嶮。必扶輦。於心始安。

と奏しつゝ峠を越えてから坦道に出るのを俟つて、始めて安心したものの如く乗馬せられた。

其の夜懷來の行宮に一泊せられた皇帝は翌朝の出發に先だち、城東の浮橋の狀況を案じて、親ら馬を馳せて詳細に橋の模樣を檢分し、其の堅固なことを確認して馬首を回し太后の發輦を請はれたのであつたが、越えて二月の朔日に長安嶺の嶮路を越える時も、皇帝は山麓から下馬して輦側に奉侍し、坦道に至つて漸く乗馬せらるゝこと八達嶺に於けるが如くであつた。丁度この日途中で東山廟に駐輦せられた時のことであつたが、平素は全く涸渇して居る廟内の井水が此の時に限つて滿々と湛へて、人馬の飲用を充たした奇蹟的現象には人々何れも感嘆相禁ずる能はなかつたといふ。

翌日輦輿が興仁堡に到着すると皇帝は先づ躬ら馬を馳せて赤城に赴き、行宮や溫泉の狀況を詳さに視察して太后の啓臨を請ひ奉り、自らは附近の頭堡と云ふ寒村の民家に駐蹕して、爾後其所から每日溫泉に赴いて太后に奉侍せられたのであつたが、これは手狹の行宮に皇帝も駐蹕せられると、太后がのんびりとして湯治出來ぬことを考慮せられた爲めであつたと云ふ。然るに二月五日になつて皇子承祜薨去の報が北京から齎らされた。承祜は皇帝の次子で康熙八年十二月の誕生であるから此の時數へ年四歳の可愛盛りなのに加へ當時は皇長子の承端も皇三子の承慶も既に夭逝して、承祜一人が愛育せられて居たのであつた。此の上奏を承けられた皇帝は一時暗然とせられたけれども、而も太后の傷悼を虞れて直ちに内大臣に嚴諭し、弔意を表しに伺候した

内容

王公等を其のまゝ退下せしめられたのであつたが、續いて太后の前に出られた時には笑談常と異らず何事も知らざるものゝ如くであらせられた。

斯うして前後約二箇月に亘る湯治に依つて太后の病疾も漸く輕快を見たので、三月二十三日に皇帝は太后を奉じて鑾輿を回されたのであつたが、偶々二十六日に長安嶺の嶮にさしかかつた時に大雨沛然として襲來した。山麓で馬を下りられた皇帝が、ビショ濡れになつて足を踏み滑らしながら輦側に奉侍せられるのを案じられた太后が、斯うした孫帝の孝養振りに涙しながら、乘馬して後から緩くり來る様にと再三勸め諭されるのに皇帝は

大路泥濘。臣扶輦而行。心始安。

と奏しながら遂に嶺上まで徒歩を續けて、其所で太后が少憩を仰せ出さるゝや直ちに走り寄つて敷物の世話までも親らして、更に嶺を下る時も亦徒歩で輦側に随ひ坦道に至るに及んで漸く乘馬せられた。

八達嶺は二十九日に越えられたのであつたが、此の時も皇帝は又々徒歩して輦を扶けつゝ随行し、太后が再三諭して乘馬を促されるのに對し

嶺路崎嶇。不似平地。臣緩歩扶輦。無甚勞苦。

と答へつゝ、嶺下の平地に至つて始めて馬に乘られたが、翌三十日の夕方北京に入つて輦輿神武門に着するや、皇帝は急いで馬を下り、直ちに又親ら太后の輦を扶けて慈寧宮に赴き、老體長途の疲勞をいたはつて其の御寢を俟ち漸く乾淸宮に回られたのであつた。

康熙二十六年十二月二十四日、目出度い新春を前にしながら紫禁城の大奥は上下を擧げて無限の憂色に包まれて居た。行き交ふ內監の足どりも殊に重重しく、常には晴れやかな美しい宮女の顏も深い憂ひに沈んで、にぶい夕陽の影が何時もの通り黃甍の屋根から四圍の朱壁に照り返して居た。十一月の二十日急に太皇太后の御不例が傳へられてから、皇帝はずつと慈寧宮に詰めきつて太后の病床に奉侍し、特に內閣にも旨を下して緊急の大事の外は奏上せしめぬことゝし、爾來日夜、帶も解かずに一意只看護に努め、藥湯も親ら之を嘗めて勸められて居る。然しながら何分七十五歳と云ふ高齢の御身に、衰弱は日に日に加はつて誰の目にも恢復は到底期すべからざるを覺えしめたのである。憂慮懊惱せられた皇帝が、最後の祈願として王公大臣を率ゐて親ら天壇に赴き、皇天上帝を祀つて太后の平癒を祈られたのは十二月の一日であつた。此の時皇帝は、齋戒潔淨を續けて親ら祝文を草せられたのであつたが、其の辭々句々は悉く肺腑をついて出でたもので文中には

願減臣齡。冀增太皇太后數年之壽。爲此匍伏壇下。仰祈洪佑。

等の字句もあつて、此の御製の祝文が讀祝官によつて悲々痛々の哀音に讀み上げられた時は、皇帝始め陪祀の諸王公大臣等何れも涙を流して感泣したと傳へられる。

二十五日の子の刻太后は遂に登遐せられた。この孝心深い孫帝の手を握つて其の至らざるなき孝養を感謝しながら、死後は必ず此のやさしい孫帝の陵に近い所に葬る様にと、臨終に際しては、特に遺詔を繰り返されたと云ふ。

庭訓格言の一書は皇帝が晩年に其の閱歷を綴つて子孫修養の一助にもと遺されたものであるが、其の倫理篇の中に太皇太后不豫の當時を記して

昔太皇太后が不豫の時朕は藥湯に侍すること三十五晝夜、衣帶を解かず目睫を交さず力を竭し心を盡して太后所望の品で準備に缺ける所無きやを慮れた。太后は時々故意に準備出來ない樣な品物を望まれる事があつたが、斯うした品が一呼忽ち御前に供へられるので、太后は朕の背を叩き涙を流して嘆稱せられ、我が老病の爲めに汝は日夜焦勞し心を盡して居るが故に凡ての藥餌から飲食物に至るまで何一つ備はらぬ物が無い。我は實は食を欲しないけれども適々用ひようとしたのは之に依つて汝を慰めようと思うたのに過ぎない。然るに汝は悉くを準備して居る。斯の如く誠を盡して思ひやりが厚く懇切なるは大孝の至りである。希くば天下後世の人々皇帝達が、斯うした大孝を學ぶ様に望ましいと語られた。

と云ふ樣な意味のことを載せてある。

中華二十五朝興亡の歷史を辿つて見ると此の間に君臨した帝王は約三百二十人で、五胡十六國の雜君を加へるとその數は實に四百人にも達する様であるが、其の中に眞に名君賢主と稱する程度のものが幾人見られたか。眼に一丁字無かつたとさへ云はれる明末の暗君や聖賢續出せる三代の昔は別として中原の王者として在位半世紀を超ゆるものは前漢の孝武帝と淸の聖祖康熙帝と高宗乾隆帝との三人のみである。聖祖康熙皇帝の文武兩方面に於ける業績は人皆これを知つて居る。私は特に此處に此の聖帝の祖母太后に對する孝養振りの一端を敍して見た次第である。

筆者は北京市公署社會局觀光科專員

北支の農村17

水稲

みづの・かほる

南米北麥は、自然の配劑がさうさせたのだと、すでに前述したところであるが、日滿支ブロツクの中で、日本の本國も、朝鮮も、中南支も、何れの地帶にも稻作りが農業の中心となつて居り、滿洲に於ても、亦近年急速度な水田開拓が行はれてゐるにも拘らず、農產國と自負する北支に、水稻栽培が普及してゐないことは、少くとも北支に在住する日本人の吾々にとつては、いさゝか不可解でもあり、又不滿でゞもあるのである。

今や北支には、三十萬の日本人が移り住んで、新しき北支の建設に協力してゐる。その三十萬の日本人の主食物は、云ふまでもなく米であるが、遺憾乍らその米を、現地の北支に求めることは出來ない。そこで遙々朝鮮や內地から、無理算段して送つてもらつてゐるのだが、昨年の旱魃による米の未曾有の減收によつて、北支在住の日本人は文字通り糧道を斷たれ、僅かにタイ米に命を繫いでゐる現狀である。

筆者はこの際こゝに、やれタイ米がまづいとか、やれタイ米が喰へないとか言つて、敢て非國民的な言辭を弄しようとするのではない。たゞ從來あまりにも食糧に惠まれて、瑞穗の國の香り高き米に喰ひ慣らされて來た吾々日本人は、タイ米ではどうしてもあきらめがつかないのである。況んや支那パンや雜穀の代用食では、どうしても日本人の胃の腑が承知しないのである。

それも、一年二年の辛抱は出來るとしても、北支に第二の故鄕としてこゝに居を定めんとする吾々にとつては、おいしい米が一生口に這入る望みがないとなると、思つたゞけでも陰鬱にならざるを得ないのである。もしもかりに、おいしい米が喰へないで、主食物は現地產の小麥や雜穀ですまさなくてはならぬといふことであつたら、いくら決心の堅い日本人でも、北支の永住を躊躇するであらうと思ふ。

さやうに日本人は不幸（？）にも、香りゆたかな、粘り氣の強い米食から、おいそれと簡單に離れられない習性をもつてゐるのである。なるほど今日北支在住の日本人は、タイ米や支那パンや、饂飩の代用食で辛抱してはゐるが、これは非常時の辛抱であるから辛抱が出來るのである。たとへ辛抱はしてゐるものゝ、このことが吾々の日常の活動の上に、肉體的にもそして精神的にも、如何に大きな影響を與へてゐるかは、何人も已れに省みてうなづけることであると思ふ。

これを端的に言へば、日本人の發展進出する處には、影の形に添ふ如く米がついて來なくてはならない。水稻の栽培が同時に考慮されなければならないと云ふことである。恐らく、タイ米や雜穀を喰んで、日本民族の大陸への多量な移住定着はあり得ないであらうと、筆者はかく信ずるものである。

そこで北支にも、將來何百萬といふ日本人が住み込んで來て、眞の民族共和の世界を築き上げようとするためには、北支に於ける水稻栽培が、米の生產が問題になるであらうとは、當然すぎるほど當然なことである。

さて然らば、北支の水稻栽培は果して如何、將來發展の可能性ありや、に就いて少しく物語つて見ようと思ふ。

從來北支に、水稻栽培が發達しなかつた理由には、およそ次の如き幾つかの條件が擧げられると思ふ。

一、先づ北支は年降水量が甚だ少い——日本や中南支の三分の一程度——といふこと、

二、山地の荒廢によつて、多くの河川が用水時期に水量が不足すること、

三、水田に利用されさうな低濕地は雨期に洪水の被害を受け易いこと、

四、地上水は濁度高く、灌漑水として屢々利用困難なる場合があること、

五、黄土であることから、比較的透水量が多いといふこと、

六、中南支の水稲に代るに、北支には小麥の栽培が好適してゐること等、

北支の水稲栽培は、大體以上のやうな理由で、その發達を妨げられてゐるものと見るべきであるが、しかし何れの理由を見ても、水稲栽培が絶對に不可能であるのではなくて、北支在來の低級な農業技術では、この幾つかの惡條件を克服し得なかつたために、水稲栽培が普及しなかつたのだと見るのが妥當である。その證據には、北支にも各地に亙つて、小地域に特殊な天惠の水利によつて水稲が栽培され、良質の米を生産されてゐるのを見ても明らかである。

北支の水稲栽培は、降水量の少いといふ一事を除けば、むしろ氣象的にも極めて好適して居り、灌漑水さへ充分に得らるれば、黄土は又水稲栽培に極めて好適せる土壌であると言つても過言ではあるまい。從來の惡條件の克服も吾々日本の技術をもつてすれば、これ又決して不可能事ではない。最近政府が計畫しつゝある治水工事に沿つて水利の方法を講ずるならば、ダムによる渇水時の理水、低濕地に於ける洪水の防禦、或は濁度高き灌漑水の處理、何れもこれ可ならざるはない。

又吾々は北支に、水稲栽培が好適するといふ更により好き一例として、同じ黄土の上に、北支地帶より一層降水量の少い生育期間の短かい黄河の上流地域即ち近くは五原平野の水田、遠くは寧夏、蘭州、西寧に到る地帶に、黄河の流れを注いで、夥しき水田が開けてゐることに刮目しなくてはならぬ。

それからも一つは、南米北麥の語の如く、由來北方人の米の消費は極めて尠かつたのであるが、このことは必しも北方人が米食を好まないのではなくて、米が他の雜穀に比べて高價であるからである。しかし最近の傾向としては、北支に於ける支那側の米の消費は年々增加の一途を辿つて居り、この支那側の消費激增による米增産への要求も、亦決して輕視するわけにはいかない状況にあるのである。

事變前に於ける、河北、山東、山西、察哈爾、綏遠五省の平年に於ける玄米産量は、大約十萬瓲（日本枡で約七十萬石）で、その內河北省がその過半數を生産して居り、又北支の輸移入數量は、大約十五萬瓲（日本枡で百萬石）內外である。これを同五省の小麥及雜穀の平年産量二千二百萬瓲に對比すると、北支の米の産額は僅かに一%にも達しない微々たるものである。

しかしこれらの生産米の多くは、各生産地近隣の都市に、輸移入米は主として北京、天津兩都市、或は青島、濟南あたりの大都市の上流階級の北方人並に北支在住の南方人に消費され、吾吾日本人はその米をあてにするわけには行かない。支那人自身が不足をかこつてゐる狀態なのである。

そこで吾々日本人が、米を北支に求めようとするには、どうしても新たなる增産を企圖しなくてはならないのである。而してかゝる大量の增産には、從來の低濕耕地たる被水害地帶を水田に改變すると共に、更に未耕地の水田開拓を考慮しなくてはならぬ。然るに北支には、幸といふか不幸といふか農民が今日まで、如何ともなし得ないで放棄されてゐるアルカリ性の低濕な土地が、到る處に散在してゐるのである。

その內でも、最も廣大な地域は河北省に於ける渤海沿岸地帶と、山東省に於ける黄河下流のデルタ地帶である。前者の未耕地は約五十萬町歩（八百萬畝）と謂はれ、後者は三十萬町歩（五百萬畝）に達するであらうと謂はれてゐる。假りにこれが吾々日本人の力によつて、よしその十分の一を開拓されたとしても——反當收量米一石二、三斗としても——優に百萬石の米を產出することになるのである。

かくて吾々日本人は、おいしい現地產の米で生活は明朗化され、眞に磐石の安きにありて北支の經濟建設に協力し得ることが出來るのだと言へよう。又水田の開拓によつて、北支民衆の日本の技術に對する信賴の念を深め、河川の分流によつて洪水は緩和され、米作と共に棉花の增產も行はれ、又新開拓地への貧窮農民の救濟移植等、この未耕地の水田開拓こそは、まこと一石數鳥の有意義な事業であることを、筆者はこゝに敢て高言して憚らない。

最近如上の意味に於て、某方面では米の五ケ年百萬石增產計畫が考究されてゐるやうであるが、願くば一刻も早く机上より離して具體化されんことを祈つて、この物語を了ることゝする。

筆者は華北交通會社資業局調査役

可園雜記

加藤新吉

今年の北京は何時までも秋の天氣が定まらず、所謂、時秋にして積雨霽れ新涼郊墟に入るといふ感が薄かつた。來燕中の梅原龍三郎畫伯は畫筆が進まず、東寶映畫の一行は撮影にかゝれず天を仰いでいさゝか歎息の形であつたが、九月も半を過ぎてからどうやら毎日の空が澄みわたるやうになつた。此頃の朝、門を出ると西山の遙かなる翠黛がいつもくつきりと胡同の彼方に眺め渡される。

仲秋の夜は野菊咲きこぼるゝ院子に親しい人達と卓子を圍んで月の上るのを待つた。そこへ谷川徹三氏が來訪された。それから渡邊邦男監督、森田信義君、長谷川一夫君、江川宇禮雄君、李香蘭さん達がやつてきた。明月も槐の梢にその姿を見せた。遠來の客と月とを迎へた院子は清談に時の經つのを忘れた。

北京で仲秋明月を仰ぐのは私にとつてこれが二度目である。前の時からは十數年の歳月が流れてゐる。その夜は滿鐵北京公署に居た伊藤武雄君と二人夜更まで城壁の月影と秋草とを踏んで歩いた。その頃を考へると北京の有様も東亞の情勢も變つた。其頃私達は支那の汽車に乘つて餘り愉快でない旅をしたものだ。支那事變前、滿洲北支間の列車が直通し始めた頃、北京へ滿鐵の列車で入り、北京からは日の丸をつけた飛行機で還つて、しみじみ今昔の感を催した私であつた。が、其後僅に三年、時勢は急轉しなほ刻々と急轉しつゝあるのである。

明月の客、特に日本からの客によろこばれたものは棗の實であつた。秋と共に北京は味覺の季節に入る。蟹や羊の料理が始まり、梨、葡萄その他の果物が食卓を賑はす。北京に住んで口腹の慾を滿たしてゐると清朝のやうに滅びてしまふぞといふ堅人でも、こゝの原始的な梨や棗に文句はいふまいと思ふ。それほど素朴な味なのである。日本の、特に都會でたべる果物は人工的な味になり過ぎてゐて野趣がない。北京の果物は概して云へば、野趣を掬するどころか野性を嚙るといふに近いのである。

少年の頃、紀文物語を讀んで二つの果物に注意を惹かれたことを思出す。一は蜜柑、一は棗である。紀國屋文左衛門が紀州から江戸に運んだのは、我が此頃たべるやうな大型溫州蜜柑ではなくて、その昔、田道間守が舶載し歸つた「ときじくのかぐのこのみ」の種子、日本在來の小蜜柑であつた、といふことは、果樹栽培の奬勵者であつた今は亡き父に敎へられた。私の家の庭にはその小蜜柑の樹が幾本もあつて五月雨頃には昔の人の袖の香をたゞよはし、秋には千顆萬顆の珠を連ねた。長江以北に枳殼あつて柑橘がないのは一寸寂しい氣がしないでもない。

紀文が富を獲て後、厠に棗を置いてゐた、客がそれをつまんでたべたら鹽氣があつた、仍て厠にまで果物を置く贅澤を羨やみ序に鹽加減のよさを褒めたら、紀文すまして、あれは鼻の栓、鹽氣があつたら一度使つたのが間違つて入つたのでせうと答へたといふ咄。恐らくつくり咄に違ひないが、福岡の田舍、私の育つた地方では棗といふものを餘りみかけないので、其實は鼻に入る位のものかと思つてゐた。ところで紀文の鼻の穴がどんなに大きかつたか知らぬが、こゝの大棗を見るととても栓にならうとは思はれない。

（筆者は華北交通會社資業局次長）

扶輪學校

寺坂亮一

華北交通株式會社は今次聖戰の最も輝かしい戰果の一つとして創立された日華合辦の株式會社であるが、從來の通念的な列國利權の假面なる合辦會社ではなく、滿洲に於ける（滿鐵）の如く、飽くまで今次聖戰の根本精神であり、我日本の大陸經綸の國是であるところの東亞新秩序の建設を日華共同て遂行しようとする國策會社である。從て單に北支蒙疆における鐵道、自動車水運等を營利的に運營するばかりではなく、交通業務を中心として東亞新秩序建設に必要なる關係事業を積極的に經營してゐるが、扶輪學校の經營も卽ちその一つである。この扶輪學校といふのは中國人社員の子弟を收容し彼等を華北政務委員會の教育方針並蒙古聯合自治政府の教育方針に準據して、國民普通教育を施すと同時に將來の鐵路マンとしての基礎教育を施さうと謂ふ學校であつて、程度は日本の小學校と同樣である。扶輪の「扶」は扶ける、「輪」は車輪の意味で、鐵道を扶け、レールを護る、つまり華北蒙疆に於ける產業の開發に、物資の輸送に、文化の傳播に、動脈的役割を果しつつある鐵道を護ると謂ふ意味で、同社の七萬に上る中國人社員の子弟に對して興亞精神を吹き込み、新秩序建設の次の戰士を育て上げようといふ目的を持つた學校である。然し之は事變後に於ける更生した扶輪學校の姿であつて、事變前の扶輪學校は全く之とは異つて歪められた抗日思想の溫床的存在として活動を續けてゐたのである。

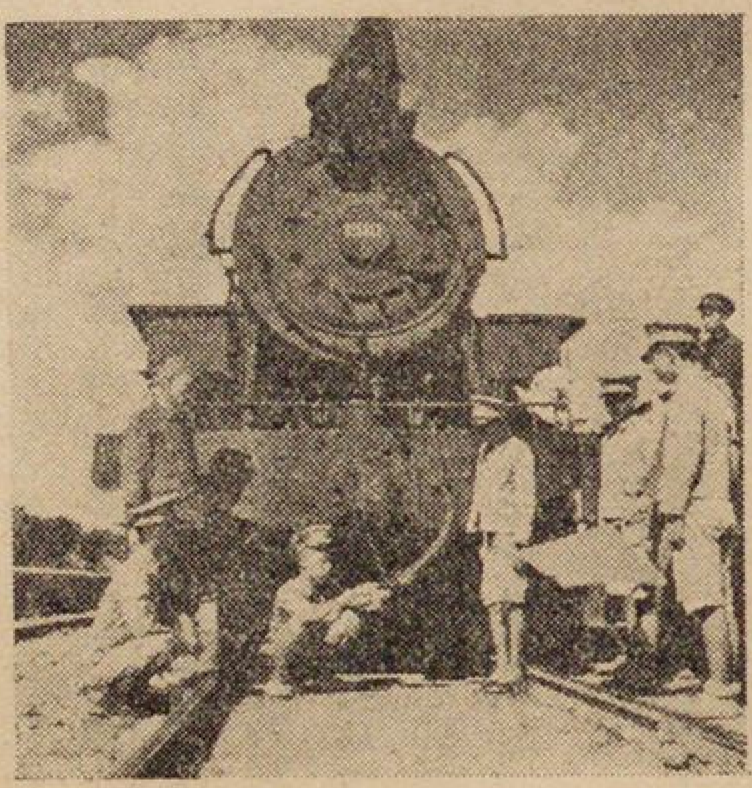
卽ち民國七年五月國民政府の教育施設にあきたらぬ鐵道從業員達が「我々の手で我々の子弟を教育したい」と鐵道沿線各地に自主的に小學校を設立經營することになつたのが扶輪學校の始りで、後、鐵道部總務司に於て之を統制管理し、準公立學校として經營することになつたものである。その後漸次兒童數も增加し學校も增設され、更に中等學校入學希望者のために數箇所の扶輪中學をも設けられた。斯くて民國二十四年（昭和十年）に於ては華北蒙疆の鐵道沿線に於ける扶輪學校數は中學を合して八十九校を算するに至つたのであるが、之等の扶輪學校は他の公私立學校と同樣、三民主義を遵奉して極端な抗日教育を施しつつ今次事變に及んだのである。

事變勃發後作戰の伸展に伴ひ之等諸學校の殆ど全部が閉鎖の止むなきに至り、教員、學生は離散し現地に殘つた者も何時再び求學の門が開かれるか前途の見透しは全然つかず、教員學童は勿論、父兄である鐵道從業員も、一般民衆も共に生活の不安と去就に迷ひ、誠に憐れな狀態になつたのである。聖戰の目的は歐米諸國の傀儡となつて東亞の平和を攪亂する蔣政權を膺懲し日中相携へて東亞の新秩序を建設しようとの大理想の具現にあるが故に、會社はこの聖戰の大義に則り、戰後、土地良民の安定宣撫と鐵道運營の圓滑なる遂行と謂ふ見地から逸早く之等扶輪學校の復興再建工作に着手したのである。卽ち昭和十三年四月京包沿線に於ける八校を手始めに現在迄に三十校を復興經營してゐるのである。混沌たる狀勢の中にあつて、扶輪學校を開校する迄には、幾多の努力と犧牲が拂はれたのであるが、學校開設の報一度傳はるや不安と疑惑に動搖しつつあつた教員學童は勿論、鐵道從事員、地方民衆では正に旱天の慈雨とばかり喜んだのである。「扶輪學校が開設される、華北交通會社の手で而も從前よりも立派な學校が開かれるのだ。最早學校迄開校する樣になつた以上今更ら蔣政權や共產黨が色々のデマを飛ばしても事實は斯うして著々と平和の建設が進められてゐるではないか」と、夫れ迄は種々なデマに迷はされて半信半疑であつた一般民衆が、聖戰の眞意義をも確認する樣になつたのである。果せる哉、開校と同時に兒童達は校門に殺到し、或學校の如きは三百人の募集人員に對して希望者は七百五十名を突破するといふ盛況で、一見些々たる扶輪學校の開設が華人社員や一般民衆の宣撫に豫期以上の大きな効果を齎した。斯樣に扶輪學校は熱狂裡に喜び迎へられ、華々しく文化の新建設に向つてスタートしたのであるが、かうして更生した扶輪學校の教育の根本方針が如何なるものであるかは自ら明かなる處である。

今次事變の發生は種々の遠因や近因はあるが、要するに徹底せる抗日教育の所產であると謂ふも過言ではない。從て東亞の新事態に於て要求せらるる教育の地位は從來の誤れる抗日教育を根本的に是正し、中國民衆に純正なる思想を注入して、日本が新東亞の建設に邁進する眞意を、理解せしむるにあ

る。而して之に協力する所の正しい理念と實行力とを付與せねばならぬことは論を俟たない所であつて、扶輪學校の使命も亦茲にある。

斯うした重大使命の完遂に當つて最緊要な問題は人的要素の整備であつて優秀なる教師がなければ、到底教育の效果を期待することは出來ないのである。幸にして扶輪學校では事變前の舊教員中から思想、人格、手腕に於て最優秀者を嚴選採用し、旁ら各師範學校卒業生中の優秀者を優先採用する等人材を網羅して教育陣容の整備を圖つてゐる。元來事變前に於ては中國の習慣上學校の經營は校長の請負に委ねる狀態で、學校教員は鐵道部との間に半年又は一年の雇傭契約を結んでゐたのである。從つてその地位たるや甚だ不安定であつて、教育に對する熱意等更になく單に知識の切賣に過ぎず、經費は教員に喰はれて施設整はず、校規は亂れて教育の權威は全く地に墮ちてしまつてゐた。然るに華北交通の經營後は社員として極めて有利な條件に於て、身分は保證され安心して業務に勵み得る狀態となり、彼等は眞に會社を信頼して教育の道に眞劍な步みを續けてゐる。然しながら國策遂行の最根本を爲す教育を彼等中國人教員にのみ期待することは困難なことであつて、優秀なる指導者が必要である。こゝに於て會社は滿洲や關東州に於ける經驗者中から華語に堪能なる日人教員を採用し各校に一名乃至五名を配屬し、内一名を副校長として、中國人校長を補佐せしめ、全般的指導に當らしめてゐる。之等日人教員達は各國家の第一線に立つて固き信念と熱意を以て、凡ゆる不便と困苦を克服しつゝ涙ぐましい努力を傾注してゐる。そのために頽廢せる校規は肅正され、教育の内容は漸次充實し今や全く昔日の風は一掃されたのである。教育の實際上、最も力を注いでゐる點は、精神教育と日本語教育である。日中兩國民が相互に理解するためには、先づ言葉が判らなければならない。


生徒の實習

扶輪學校には前に述べた樣に優秀なる日人教員を配屬し、每週低學年にあつては四時間、高學年にあつては十時間の日本語の時間を設け日本語の普及に意を用ゐてゐるが、日人教員の熱心なる指導と中國人教員が率先その範を示すことに依つて日本語熱は極めて旺盛である。開設後二年を經た今日その實績は豫期以上に收められ、今では「君が代」や「愛國行進曲」等も朗らかに唄はれ、北京の或學校では學藝會の際日本の小學生かとも思はれる樣な流暢な日本語で劇をやつて參觀者を驚かせたと謂ふ程である。さては兵隊さんの慰問や、子供の時間のラヂオ放送に迄流暢な日本語が話されるといふ微笑ましい興亞風景が展開されてゐる。尚又扶輪學校では一般の民衆にも呼びかけ積極的に日本語の普及に乘り出してゐるので、扶輪學校ある處必ず日本語熱が旺盛だと謂ふ結果になつてゐるのである。日本語の普及は必然的に日本人への理解を深め、日本人に對する誤つた觀念も、學校に働く日本人教師を通し或は學校の施設を通して段々改められ、心から日本人と提携して東亞新秩序の建設に邁進しようと今や積極的に動き出して來たのである。この樣に日本語のみならず、體操に唱歌にその他各種の學科を通し兒童はもとより彼等を通して父兄も亦一般民衆も漸次純正なる思想が培はれ魂の純化が深められてゐるのである。勿論教育の效果は一朝一夕に擧るものではなく、之を遠く將來に俟つべきである。

扶輪學校はその他勤勞教育に、規律訓練に、衞生思想の涵養に、愛路少年隊の活躍等に於て多大の成果を收め、開設後僅か二年にして地方教化の中心的存在として重きをなしてゐる。斯くして沿線三十の學校に學ぶ約七千五百の生徒達は明朗快活にスクスクと育つてゐる。尚之等三十校の外に、將來は沿線各地にドシドシ增設する豫定である。

以上の如く華北交通經營の扶輪學校は華人社員や一般地方民衆に大きな福祉を齎すと共に戰後に於ける民心の安定把握の上に極めて效果的な宣撫をなし、興亞教育の一翼として大きな役割を果してゐるのである。私共は東亞の新事態を正當に認識して新しい中國の建設に進んで協力せんことを期し、之が爲には全中國の大人達の覺醒を促すことが刻下の急務であると考へると同時に明日の中國を擔つて立つべき小國民の將來に大きな期待をかけたいと思ふ。

（筆者は華北交通會社厚生課長）

包頭

小林德

包頭は京包線の終點で又黃河上流水運の終點であると同時に西北支那に於ける沙漠の門戸でもある。今は軍事進行中であり一方外蒙との交易杜絶せるため昔日の繁榮はないが元來外蒙、新疆、靑海、甘肅、寧夏及び陝北をその商圈とし之等諸地方とは駱駝、皮筏、民船等により貨物の往來頻繁を極め交易額も年額二千萬元を突破したことあれど新疆外蒙方面との商業杜絶して以來は年額二千萬元内外に激減した。

包頭に鐵道が開通したのは大正十二年正月一日であつた。筆者はその日の記念すべき列車に初乘した唯一の外人である。無蓋貨車九輛に有蓋貨車一輛を連結した貧弱な列車に蒙漢回人等様様の風俗の客が各車にすし詰めとなり午前八時頃、歸化城を出發したが途中畢齊克齊附近では路盤が强固でなかつたため徐行し包頭着は午后五時頃だつたと記憶してゐる。沿道では火車を見物しようと近鄉から騎乘の見物人が押しかけお祭り騷ぎであつた。各停車場は何れもバラツク建で漸く形ばかりのホームが出來てゐた。

列車開通前のこの地方の旅行は轎車か騎馬か駱駝に乘つたが、大人紳民は轎車を傭つた。一臺に三人乘れるが大人は面子上一人か二人で車中に坐し從者は騎乘で隨行した。三頭曳轎車一日の賃金五元位の割合だつた外、歸化城包頭間は四日を要したから宿料食費を合すると一人當り十二元餘はかゝつたであらう。尤も宿料といつても薩拉齊のやうな大きな町？ですら一泊大洋二錢五厘位で大威張りだつたから笑はせる。道中仁丹五粒と水瓜一個とを交換したのもその頃のなつかしい追憶である。それが今は三時間餘二元二十仙で發着するのだから文化の有難さが痛感される。

歸化城が京綏線の終點たりし頃迄の黃河上流水運の終點は包頭より一三〇粁下流の河口鎭であつた。それは歸化―河口間一〇〇粁に對し歸化―包頭間は一五〇粁で前者の方、陸運距離が五〇粁短縮されてゐたからであるが鐵道が包頭に延長されるや河口鎭の殷賑を奪つて包頭は急速度に膨脹した。以前は包頭とは書かず泊頭と書いた。讀んで字の如く黃河々畔に於ける民船の假泊地にすぎざる存在であつた。

前清の乾隆末年より同治年間に亙る約一世紀の西北支那は頗る多事であつた。曩に新疆に張格爾の亂あり、一時平定したかに見えたが太平天國の亂起るや寧夏の回目馬化隆や捻匪の擾亂あり、次いで新疆に妥明及びヤクブ・ベクの蹶起あり、外藩邊地の離叛は愈深刻化したが同治六年（西紀一八六七年）清朝はこれが徹底討伐を決意し左宗棠を陝甘總督に任じ欽差大臣の印授を授け西北支那に涖ましめたのである。左宗棠は三軍を進むるに際し過去の討伐軍の失敗が軍餉の續かざりしに起因せし事實に鑑み、後方糧道の完全を期し泊頭にも糧臺を置き淸兵を駐紮せしめ城壁を構築した。築城の年代は明かでないが同治末年たることは疑問の餘地なく約七十年を經過せるらしい。東北角外には今も砲臺の遺跡がある。當時の城周十九里とあるが、この地方では十里は四粁位であるから今も當初のままの城壁と見てよからう、今は城周七、千八百米である。京綏線旅行指南には咸豐年間より漢人が移住し始め古名を高闕塞と云つたとあるが漢の高闕塞は五原縣城の西北、陰山山脈中にあり、包頭とは二四〇粁も離れてゐるから兩地を同一視するは無理であらう。

當時の包頭附近は人煙稀れで附近一帶は草原であつたし且つ交通機關も備らなかつたから石炭は容易に手に入らず煉瓦を燒くことも困難で從つて城壁は土壁であつた。海拔九九〇乃至一〇三〇米である。正確に云へば（メートル以下四捨五入）

西門	九八六メートル
南門	九八九メートル
東門	一、〇二三メートル
東北門	一、〇三〇メートル
西北門	一、〇三二メートル

である。もと薩拉齊縣下の一市鎭にすぎなかつたが鐵道開通の民國十二年に設治局が設けられ民國十五年には縣に昇格し直に一等縣に指定せられたが以てその頃の包頭の繁榮振りや憶ふべしであらう。人口は民國二三年一萬三千戶七萬七千人で、男女の比は女百人に對し男三百八人と云ふから左表の示す如く、北支第一の女ひでりの都會である。（單位人…事變前）

張家口	二二五	靑島	一五五
太原	一八七	厚和	一五〇
濟南	一七一	天津	一四一
西安	一六八	開封	一二三

北京　一六二　威海衛　一一二

かく男女百分比の懸隔甚しきは交易が半ケ年に片寄り出張者や船筏夫、隊商等短期居住の外來者の多きを反映するらしい。この種類の人數毎年一萬四千に達すと云はれてゐる。

包頭の商業は十一行に區別されるが其主なるは絨毛、糧食、蒙古の三行である。就中絨毛行最大である。その絨毛行中の代表的なのは前大街の廣恒西である。間口は左迄廣くはなく別に看板も掲げてゐない。唯鐵板と、その鐵板に不細工な八寸釘を縱横七、八寸位の間隔で打ち付けた警戒物々しい二つの大門があるばかりで殆んど行人の注目を惹かないが、奥に入るに從ひ庭園の廣大さを增すには驚かされるのである。第一院は各地より來集する貨物の積卸場となり事務員小使番人の詰所等がある。第二院は各地の貨客の部屋が四周に軒を並べ事務所があり、第三院は住宅と各地の銀行又は銀號の出張所があり、最奥の第四院は毛皮の乾燥兼荷造場で毛皮業公會が陣取つてゐると云つた狀態で、その總面積は一萬坪もあらう。それに毛皮の集散期になると各院の屋根まで乾燥場に利用されることになつてゐる。要するに廣恒西一軒で商店、旅館、住宅、銀行、倉庫及び荷造場と毛皮業公會を包含せる一大組織であり社會でもある。帳場からは每日貨物發着の概略數量、荷主等に關する詳細な日報が發行され、貨物の到着までに已に大部分の取引が成立する。

東門を入ると東大街がある。東大街を東門より八百五十米程行くと耶蘇教會堂の前で二道に分れ西南進すれば前大街となり西門に通ずる。西北進すれば後街、草市後街、財神廟街を經て官井梁街となり西北門に出る。この財神廟街の西端で南西折し西河槽街、西門大街を行けば西門に達する。

城內の東南隅には九百華畝（我約五十六町步）即ち城內面積の一割二分七厘强に當る野菜畑がある。この田畑の灌漑用水は東城壁外を流れる水磨溝から城內に引入られてゐる。元來包頭城內の北部及び東部は伏流水が到るところに湧出し水質又佳良のため都市の發展には好條件を備へてゐる譯である。現に城內で最初に發展したのは東、東北兩門內であるが右は東門外の轉龍藏に龍泉水が湧出せるためである。水質包頭第一と稱せられ昔は三泉あつたが今は二泉となつてゐる。城內より商業區と野菜畑を除けば他は槪して住宅區である、但し西門內に若干の空地が殘つてゐるが。

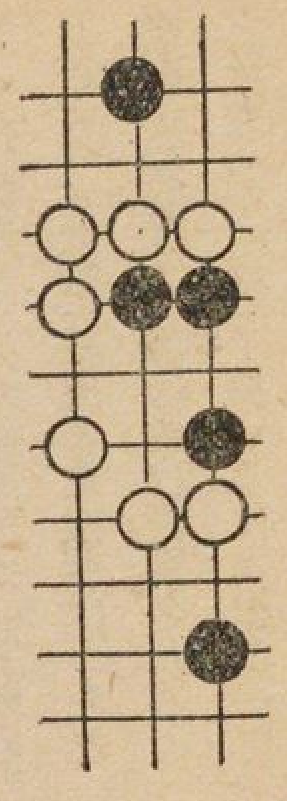
停車場は南門外一粁半の地にあり附近は貨棧、旅店多き新開地である。黃河碼頭たる南海子は停車場より更に三粁半、五月より十一月に至る黃河水運期には民船皮筏木材筏等が輻輳する。又西門外には西腦包なる接續部落がある。附近は良好なる牧草に富むので往昔よりキヤラバンの好宿營地だ。包頭今日の發展は西腦包に負ふ所が多い。

要するに包頭は城內、車站、南海子西腦包の四部作より成り、この內の一部が缺けても沙漠の門戶たる價値は大いに減殺されるのである。

包頭を中心として集散する貨物は事變直前大體奥地向け貨物は茶、綿布糸石油、煙草、砂糖、燐寸、鐵器、陶磁器、紙類で年約二萬瓲、これに對し奥地及附近より包頭に集散する物資は毛皮類、藥材、磨姑、水菸、雜穀、鹽、天然曹達、阿片等で、この內毛皮類は一萬五千瓲內外、藥材、水菸、磨姑類七千瓲內外、雜穀七萬四千瓲內外で雜穀三萬四、五千瓲と毛皮類若干が現地で消化され殘合計六萬二千瓲上下が京包線で他地方に移出されてゐた。

黃河上流水運その他につき說明せねば本稿は完結せないが右は稿をあらためることにしたい。（九・一二）

筆者は東亞研究所囑託



北京の圍碁

安武誠一

支那の碁會所

碁會所といふものは日本に限られたものと思ひ込んで居つたら、中國の友人H氏が「えゝ、あちこちにありますよ、中央公園の春明館といふ茶館がさうだし、東安市場のなかにも、ありま す。なんならこれから行つて見ませうか」と氣輕に案內して吳れた。東安市場の人混みを東北隅へ拔けると、露天の支那手品や輕業に人だかりのした小さな空地がある。この空地に面した三義軒といふ茶館の二階が碁會所なのである。晝飯の時間をやつと過ぎたばかりの時刻なのでまだ常連の顏は見えない、ガランとした室に正方形のテーブルが五六卓あつて板の盤と小さなザルに盛つた石とが備へてある。形も大きさも整はないお粗末な代物でちやうど子供のおはじきみたいな恰好をして居る。支那人の無頓着な感覺が盤や石にまで現はれてゐる、日本なら井目黨てさへ「感じが出ない」とソツポを向くだらう。いまを時めく吳泉の天禀こんな盤と石の中から見出されたのだらうから榧や日向蛤御自慢の萬年井目にとつてはまさに皮肉なことである。碁器のザルをいぢりながら「ザル碁とはこゝから始つたんですね」と言つたら日本語のとてもうまいH氏は「いや、ほんたうの碁器は立派なものがありますよ」と大眞面目で說明して吳れたことである。

春明館といふのは中央公園の繁みの中にある茶館で東安市場の雜沓の中とは全く趣きを異にして居る。公園を散策しながらブラリと茶館をのぞくと碁仇きにぶつつかる、今日は仇をうつぞとばかりに緣臺碁が始まるのである。北京の碁會所は席料をとらない、瓜子兒をむしりお茶を飲みながら——支那人は心からお茶を樂しむのであるが——碁を打つたあとでなにがしの茶代を置けばいゝ、茶代であるから額もきまつて居ない、身分相應なところで置いて行けばいゝのである。

第二世吳泉のこと

北京の支那人にも相當の打ち手が居り初段格といふ所が數人居るらしい。この邊が素人の最高レベルのやうである。ところで昨年天才少年が現はれた。邵繼廉といふ十五才の少年で實力は三段格といひ、今年になつてからメキメキ腕をあげたので四段格だとも言つて居る。この少年をなんとかして北京の本因坊にしたいといふので昨年東京留學の話もあつたさうだが何かの都合で沙汰止みとなつてゐるらしい。邵少年は吳泉七段と同じく福建の生れで吳泉が瀨越七段に見出されて東京へ旅立つたのが十四才、この少年の東京行きの話が起つたのも十四才、しかも二人は崔雲趾といふ北京素人名人の手ほどきを受けた謂はば兄弟弟子だといふ。

北京の碁打ち仲間は、いまだに邵少年の東京留學派遣をあきらめかねて居る。支那の棋道復活を圖るためにはどうしても中心となる實力者がほしい、邵少年を東京の本場に送り、磨きをかけて四段でもいゝ五段でもいゝからそれを土產に北京に歸つて貰ひたいといふのである。いま日本棋界の最高峰に立つ吳泉に對しては「でかした」と褒めてやりたいが、日本に行つたきりで鐵砲彈では困る、支那の棋道を復活させる中心人物が欲しいといふのが邵少年を留學させたい理由なのである。

北京棋院創立の議

邵少年の日本留學もさることながら近頃は、北京棋院創立の議も起つて居る。H氏は「碁はそもそも支那に創まつたのであるが日本で大成された。完成された日本棋道を再び支那に輸入して斯道の隆盛を圖ることは圍碁を通じての日華親善に是非共必要なことであると思ひます、そのためには先づ北京棋院といつたものが欲しいのです」と熱心に力說して居る。

由來中國人の一般通念は支那民族ほど高度の固有文化を有して居る民族はない。日本はもとを糺せば支那文化の亞流ではないかといふ自負心に滿ちて居る。日本ははじめ支那の文化を輸入し、次いで西洋文化をとり入れて完全に自己のものとなし、今日では獨自の高度文化を築きあげたといふことを一向に肯定しないのが一般の通念なのである。しかしながら圍碁に關する限り「發祥の地は支那であるが大成されたのは日本である、大成された日本の棋道を逆輸入して、往時の復興を圖りたい」と率直な氣持を表明して居ること

は近頃うれしい話である。圍碁を一概に遊戲であると斥け、或は親の死目に合はぬていの道樂趣味と斷ずる徒輩には右のやうな議論の建て方を馬鹿々々しく思ふかも知れない。最近ヒトラーユーゲントで熱心な圍碁の奬勵を行つて居ることは、あまりに有名な話である。分析、推理、綜合、判斷といふやうな知性の磨きは圍碁の右に出づるものがないといふのがその理由となつて居るとのことである。閑人の遊戲や道樂に非ずして、最高水準の文化の所産なりと獨逸が一歩先きに圍碁の評價替へをしたことは、輸出國たるものいささかテレ臭い感なきにしも非ずだが、福田五段をわざ〳〵獨逸に派遣した日本棋院たるもの、棋道の再認識を行つて、手近かな支那大陸——いま國をあげて大きな事業に手をつけて居る支那——に對して象牙の塔を出る勇氣は無いものだらうか。支那の棋界はいま日本に對して、日本棋院に對して手を差し延べて居るのである。

支那の棋譜

北京の古本屋を漁ると清朝時代の棋譜があちこちにころがつて居る。なかば好奇心から時々買ひ求めてゐるが、支那古碁にも捨て難い味ひがある。近年流行の新布石に於ける釣合ひの重要性といふことなども支那古碁の布石に散見して居ることなど、新布石創始者の一人に呉泉があることもあながち故なきに非ずである。やはり古本屋から掘り出したものに明治時代の日本の棋書「敲玉餘韵」といふのがある。明治三十三年巖崎健造の主催する方圓社から出版された木版刷の名人秀策の打碁集である。支那の愛棋家の藏書だつたものらしくその道の支那人が明治時代に於て日本棋道に愛着を持つて居たことがうかゞはれる。現今でも支那の碁は最初から黑白ともに對角線に二目づゝ星に打つておく支那古式なのが壓倒的に多いさうだが、日本式圍碁を學んだ少數の者だけが今日の北京で強い打ち手であることも興味あることである。

在留邦人の圍碁熱

在留邦人の圍碁熱はすばらしい。現地に娛樂機關が尠いといふことも斯道隆盛の一つの理由かも知れない。

碁盤を賣つてゐる店で尋ねて見たら、「なんぼ仕入れても飛ぶやうに賣れます」といふことだつた。昨年の二月だつたかまだ在留邦人も現在の半分も居ない頃、土地の新聞社の主催で邦人圍碁大會をやつたことがある。出席者が百數十名に達する盛況で、主催者が一番心配の種だつた碁盤—折り盤ではない—も簡單に百面以上を集め得た。いま邦人の打ち手としては、三段格が筆者の聞いて居るところでは、二人ある。初段程度は、あちこちに居るらしい。

邦人經營の碁會所はたゞ一軒あるだけで圍碁の機關がないことは、碁を愛する者にとつて一番さびしいことである。機關がないから日支兩國の愛棋家が相見える機會もないのである。聞くところによると、石本惠吉男や華北交通後藤副總裁などの間に、倶樂部設立計畫もあるとのことであるが、一向話が進んでゐる樣子もない。かういつたものはやはり滿洲のやうに日本棋院から人を派遣して呉れなければなか〳〵まとまるものではない。先き立つものは人と金である。支那側の北京棋院創立問題も財源の點で惱んで居るさうである。華北電業の理事李宣威氏なども非常な熱心家の一人で財的援助も惜まぬといふ力の入れ方ださうであるが、かういふ問題は個人の力ではどうにもならない。北京棋院創立の實現は結局日本棋院あたりが御輿をあげてからのことである。

筆者は華北交通會社資業局員

驢と騾

西田周作

驢は馬に似て小さく、耳が長いところから「うさぎうま」とも呼ばれ、支那でも「長耳公」と言ふ名稱がある。動物學上馬屬に入るが小馬（矮馬）とは異る。毛色は一定せず黒色灰色の濃淡等で、鼻口と眼の周圍、腹部、四肢の內側等が白い。淡色のものでは背中に黒い條が尾まで走り――これを鰻線と言ふ――肩で分枝して一寸面白い條斑を現はし、肢にも少し横斑がある。

驢には大驢（體高一三〇糎內外）と小驢（體高九五糎內外）があつて、小さいのはこれでオトナなのである。體型は頭が大きく前軀の割に後軀は貧弱で、馬の樣にお尻が丸くない。四肢は細い割には強く、その小さな蹄も――纏足の樣な――質が緻密で硬い。尾は先きに房が着いてゐる。

我々の見かける驢は、家畜化されたものであつて、野生の驢も今日北東亞弗利加、紅海沿岸に一種、亞細亞では蒙古、西藏の高原、西北印度に二種が知られてゐる。これが野生から馴化されたのは西部亞細亞でその時代は馬の場合より古いとされてゐる。支那へもそこら邊から移動して來たもので、漢時代に初めて入つたものらしい。馬を先きに見た目からは、邊疆の「奇獸」と稱されたわけである。

奇獸と言へば、奇怪なのはむしろ、その鳴聲だらう。牡の驢は、一般に去勢されないので、屢々あの奇聲を發する。宋の范廷召がこの驢鳴を嫌ふ事甚しく、之を聞く度に之を殺したと言ふのは少しどうかしてゐるが、反對に梁の王仲宣は又之が大好きだつたので、彼の葬儀に臨み、簡文帝と會葬者一同佛前にその奇聲を眞似て靈を慰めたとあるのも亦どうかと思はれる。とにかく、感じは餘り良い方ではない。

驢の馴化は荷を負ふ事、馱載用畜として初まつたが、この役割は今日も變らない。又北支滿洲に見る樣に身體の割に大きな車も輓くし、中流以下の氣のおけない人々を背に乘せて小キザミな足取りで旅もする。農耕用動力としては、牛馬騾等の補助役畜として農具を輓き、乾燥地の農業には、井戸水汲みに終日小さな圓を描き續ける彼の役割は重大なものである。穀物調製にも原始的な臼の周圍を歩かされる。

それでも、馬を持たなかつたスメリヤ人は、昔、驢に戰車を輓かせたさうだが、この英雄的な役割は當然馬に讓られる可きものであつた。驢は騎士の乘物にはならずとも、輜重役畜として作戰上重要な役目を受け持たされる事は少くない。

その畜力は先づ馬の半分と見てよいが、飼料は馬の約三分の一で足り、然も粗食に耐へ持久力に富み、體質が至つて強健で病氣の少い事等、確に有益な家畜としての資格を備へてゐる。

驢は歐洲では遲鈍、頑固の象徵みたいに言はれ、イソップ物語以來の笑ひものになつてゐるが、馬に比べて感激性に乏しく、時々スネル癖もあるが、概して柔順で、頭も良く、忍耐力が強く、調教次第では實に手頃な家畜である事に疑ひはない。手頃だと言ふのは主に、狹少な土地に喘ぐ農民にとつての事で、斯うして見れば、北支でのその廣範な分布の理由も首肯出來るだらう。農民の家畜、家畜の中での苦力的存在として、その地味な、しかし重要な位置は充分認めてやりたい。

次に、騾の話だが、これは又色々の意味での「奇獸」に違ひない。と言ふのは、その母は馬、父は驢（大驢）の混血兒なのである。うつかり見れば母親似で馬と間違へるが、明かな特徵の一つはその耳で、父親程ではないが確に長い。毛色は濃褐、黒褐、黒、濃灰、淡灰、白等で、淡色のものでは背中に父親讓りの鰻線も出、肢の横斑も現はれる。體型は馬に近いが、やはり前軀が強大で力も強い。粗食に耐へ持久力のある點、病氣の少ない點等は驢に近い。馬の樣に耐寒性が強くない事も驢の素質を受け繼いだものだらう。つまり、どちらともつかないこの間生（＝混血兒）は、概して言へば、體型は母に、性質はより多く父に似てゐると言へる。

騾の初めて產れ出た土地は、イランの高原から小亞細亞地方一帶と考へられてゐる。野生の馬と驢から生じた野生の騾を捕獲馴化したと考へるよりも、家畜化した馬と驢の所有者が、彼等を雜居させた際、偶然生じたこの變り種の効用を知つて後、人爲的に交雜させて、騾を生產したと看做す方が合理的な樣に思へる。

支那に到來したのは驢と同時代で、最初匈奴北地に產する、これも亦「奇獸」として知られた。今日北支滿洲に廣く普及してゐる。

騾のガンバリの強さを示す例として、坂路や砂地等の骨の折れる場所で車を輓かせ、蒙古馬では呼吸數が一二〇乃至一三〇に及んで三〇分の休憩にも恢復しない場合、騾は同じ勞働をやつて後呼吸數三〇乃至四〇で、次の勞働に移る事が出來た。又二箇月間の長途輓曳に馬の體重の減耗量は一五%に達したのに騾では僅か七%、旅行中馬は三頭斃死、廢馬も數頭出たのに、騾は皆、無事だつたと言ふ。

重量の駄載に耐へ、大車、轎車を輓き耕耘その他農業上の利用も盛で、役畜としては甚だ尊重されるので、その價格も往々馬より高い。飼養管理が面倒でなく、飼料は馬より少く約三分の二でよいとも言はれる。

第一次世界大戰では英國はこの騾に目をつけ北支から軍用騾十五萬頭を購入し、戰線に送つたと言ふ事も附記して置かう。

騾は母が馬、父が驢—それで母系的に騾を馬騾とも呼ぶ—だつたが、その逆の牝驢と牡馬の交雜でも、子供は出來、これを駃騠—或は驢騾—と言ひ、前者とは區別されてゐる。駃騠の外觀は大して騾と違はないのだが、體質は餘り强健でなく役畜としての能力は騾に及ばないと言はれてゐる。

いつたい生物學上の異種或は異品種を交雜して生じた子供が兩親の何れよりも生活力が旺盛だと言ふ例は少くなく、雜種强勢現象と呼ばれてゐる。それで、騾の强健は、驢の强健の遺傳だけではなく、雜種强勢現象もそれに加はつたものであらう。しかし、別に又異種間雜種の虛弱な例もあり、駃騠の場合は後者に入れ得るかもしれない。

異種間の雜種もあまり緣が遠すぎると子供は出來ないのが普通で、馬と牛、犬と猫なぞは駄目だが、野牛と牛、猪と豚、獅子と虎、鷄と雉等では間生が出來る。ところが、異種間雜種の大部分につきものの呪はれた運命と言ふのはそれ等の間生には生殖力が無く、子供が出來ない事、だから一代限りでおしまひになつてしまふ事なのである。騾も駃騠もこの例に屬し、牝牡、雌雄はあつてもそれ等自身の子孫は遺す事が出來ないのを原則とする。

しかし、絕對に生殖不能だとは言つてしまへないので、牝騾が子を產む事は、稀ではあるが、あるらしい。否、確實な報告もある。さう言ふ場合の多くは、その父は恐らく馬だらうと思はれるが、細い點は明かでない。とにかく騾が子供を產む事は稀らしい事で、歐洲でも昔はこれを不吉な事と考へ、その母子を火刑に處したと言ふ記錄もある。北京近郊での例（民國十年及び十三年）等も、新聞種になる程の奇聞に屬するわけである。

では、何故生殖不能なのか、と言ふ事に關する面倒な研究も、牡騾で既に報告されてゐるが、結局、その性器官は整つてゐるのだが、睪丸の中に、カンジンの精蟲がゐないのである。精蟲形成が途中までで、未完成に終るのである。騾は、馬から受け取つた材料と驢から受取つた材料をつき合せて、自體の精蟲を作りあげねばならないのだが、この半分づつ持ち寄つたものの性質の違ひの爲に、極くデリケートな部分でひつかかり、巧く行かないのである。

かうしたわけで、極めて有利な役畜ではあるが、その生產には、どうしても牝馬に半役買つてもらはねばならないので、騾を作るのに牝馬の腹がフサがる事になり、馬の蕃殖にとつては大いに差しつかへる事になるわけで、南歐では、この意味から騾の生產を制限或は禁止した地方もある。結局、これも馬との間の問題になるが、やはり馬と驢と騾の三者の役割と價値の再檢討が必要だらうと思ふ。

筆者は國立北京大學農學院副教授



支那歴代の古錢千二百個を寄贈

和平建國運動の一翼として日支提携に盡力してゐる興亞建國運動本部では、北支で多年、知事として令名のあつた古錢蒐集家楊銘修氏が苦心蒐集した堯舜以來の支那古錢約千二百個を、外務省を通じて日本の文化機關に寄贈することになつた。

この古錢は、昨年アメリカ人が太平洋博覽會に出品するべく、十萬元で買取り方を交渉したと云ふいはく付の物で、二尺四方の見事な黒檀の箱に納められてをり、第一類は堯舜を始め夏、商、周時代のもの百八個、第二類は秦漢、晋、宋、魏、梁、隋、唐、元、明清時代約千個、第三類は唐代より清朝に至る大型または落平古錢百個に分れ多數専門家の考證を經た珍品である。アメリカ人より買取りの交渉があつた際、楊氏は外人の手に渡すことを好まずこれを一蹴、建國運動に參加するとともに本部に託して、日支文化提携の一助にと、寄贈方を依頼したものである。

童心に映る東亞建設の感激

「われらの鐵路はわれらの手で護らう」と大陸建設の動脈であり、興亞のルートとして日増しに伸び行く鐵路に敢然と立ち、交通路の安全確保に日夜挺身してゐる、華北交通愛路少年隊員の健氣な働きを一雑誌で讀んだ日本の少年達が、烈々感謝に溢れ稱讃の言葉を綴り、その功に對する心からなる贈物を同封した手紙が幾百通となく華北交通愛路課に届けられ感激の話題を呈してゐる、このうるはしい通信の起りといふのはかうだ。華北の愛路工作は建設の進展と共に最近頓に活潑となり、その工作内容も各機關を通じて漸く一般に認識されて來たがこの工作の先驅としての使命を持つ愛路少年隊の活躍振が九月號の少年倶樂部に掲載された。物語りの内容といふのは北京鐵路局内の長辛店愛護地區の一愛護村民が鐵道は吾等の救の手であり、新しい樂土を築く大切な動脈であるとの念に燃えて、之を破壞せんとする匪賊の魔手を防ぐ不眠の活躍を續けてゐたところ、この挺身的行爲が匪賊にねらはれ、遂に匪賊の兇手に殪れた。この村民を父とした二人兄弟が、父を失つた悲しみの中に父の仇、甦生中國の仇を討たうと決意し、愛路少年隊に入つて鐵路愛護に健氣にも奮闘してゐるといふ美談で、これをよんだ日本の少年達は支那少年の勇敢さに驚くと共に、大いに感激し激勵の手紙を送つたもので、中には自分で使用してゐた人形の飾付の鉛筆や、守札、或は自分で書いた物語りの挿畫を贈物とし、「君達の手柄には感心しました。烈々たる太陽のもとに心を合せて仲よくおほやけのためにつくさうではありませんか」等、美はしき童心を幼き同志達に訴へてゐる。

沙漠の巴盟家鴨の名産地へ

畜産改良増殖に、その他の資源開發に多大の成果を收めてゐる蒙古の巴盟では、黄河の支流や沙漠に點々としてある湖沼を利用して巴盟を家鴨の名産地につくり上げようと、托克托清水河、包頭、安化の各地へ宣化家鴨飼育試験場で産まれた家鴨の赤ちゃん一萬五千羽を十月一齊に放養することになつた。尚明年度は、放養池を擴大して五萬羽を放養しようと目論んでゐる。

救はれた華人僧邦人神官に感謝

神佛道を乘り越えて邦人神官に救はれた華人尼僧——道教尼僧吳振英は八月十日ごろから華人廟を始め日界天津神社に同教者五六名と毎日詣でてゐたが、八月下旬華街大胡同の靜業庵廟に赴いた際、どうした間違ひか、擧動不審に依り警察局へ引致され拘留二十日に及び、遂に地方法院で徒刑二ケ月服刑二年を求刑された。この話を聞いた天津神社主任小坂久道氏は同女の無實を信じ支那側警察に對し熱心に保釋を交渉の結果、幸ひにも無實と判明し、釋放されることになつたが、同女は痛く小坂氏に感謝し神のお怒りに酬ひるのだと稱して二十日間の斷食を行つてゐる。

愛路村へ畜産副業

華北交通愛路課では鐵道愛護村の民生を向上させるため優良種子の配給、優良家畜の飼育奬勵など各種の工作を進めてゐるが今回華北農村で初めての畜産副業として洋服地ホームスパンの原絲を紡がせ農村の増收を圖らうといふ劃期的の計畫をたて實行に着手した。華北農村に於てこのやうな高度の副業奬勵が行はれることは事變前かつてみられなかつたことで、その成果は非常に注目されてゐる。まづ實行に取りかゝるのは羊を澤山飼育してゐる張家口鐵路局管内の愛護村からで、目下華北交通本社愛路課の指導により諸準備を進めてゐる。日本から購入の機械が到着次第早速絲紡ぎに取かゝる豫定で、その

時期は十一月の始めと見られる。この試みは華北農村副業の劃期的發達をもたらすものとして、それが實現は各方面から期待されてゐる。

急行貨物自動車を北京天津間に運行

治安の確立に伴ひ京津地方の經濟體勢は頓に緊密化し貨物の移動は逐日驚異的發展を示し、そのため現行輸送力では到底これが圓滑を期し難いので、豫て天津、北京兩商工會議所その他經濟關係側の要望もあつて、華北交通では兩地間の輸送力强化のために九月十五日より一日二回の定期急行貨物自動車の運行を開始した。尙當局では今後兩地間の所要時間を三時間程度に短縮するべく鋭意研究を進めてゐる。

優良洋車夫余北京市長から表彰

北京市警察局大禮堂では仲秋節に際して善良車夫表彰式を行つた。表彰された善良車夫は百七十一名で、余市長から麵粉五斤と奬勵金二圓を貰ひ、市長の訓示をうけていづれも大喜びであつた。これらの車夫達は匪賊や犯人を發見して申告したもの、人命救助、迷子をいたはつて警察に報告したもの、客の遺失物を拾得して持主に戻したものであつた。

京山、津浦、膠濟線へ愛路列車

華北各地の皇軍勇士、鐵道従事員の慰問と併せて鐵道愛護村民に「愛路萬民享福」の趣旨を徹底させる爲、今春三月下旬から約四ケ月間に亙つて映畫、劇等の各種娯樂、醫療、日用品などを山と積んで春の愛路列車を運行、鐵道従業員、愛護村民から喜ばれ、映畫、劇を觀覽したもの三百萬人、施療人員三十萬人、廉賣車の賣上高六十萬圓といふ好成果を收めた華北交通では九月二十日から秋の愛路列車を運行した。この列車は廿三輛編成で春と同様の<綜合福祉>を滿載、約九十日間に亙つて春の愛路列車が運行しなかつた京山、津浦、膠濟の各線を巡回するもので、北京站を振り出しに京山線、津浦線、膠濟線沿線の各地を訪れ十一月中旬北京に歸つて來る。

蒙古の野生麻が混紡用纖維

日本では、事變以來麻の不足に惱んでゐる折柄、白麻、綠麻、土麻等の野生麻が、蒙古の厚和包頭地方に自生してゐることが發見され、纖維界に大きな話題を齎らしてゐる。この麻は野生のもので牛馬や羊の飼料にも向かず古來のこの地方の廣漠とした原野に自生繁茂し、誰一人として顧みる者がなかつたものである。

これを原料とした纖維の生産費は羊毛よりも棉花よりも低廉であり、その上混紡用として用ひた製品は實に素晴らしく、各關係方面から絕讃を受けてゐるので蒙古政府當局ではこの野生麻の人工的栽培を大いに奬勵してゐる。

殖える北京の邦人一日平均四十五名

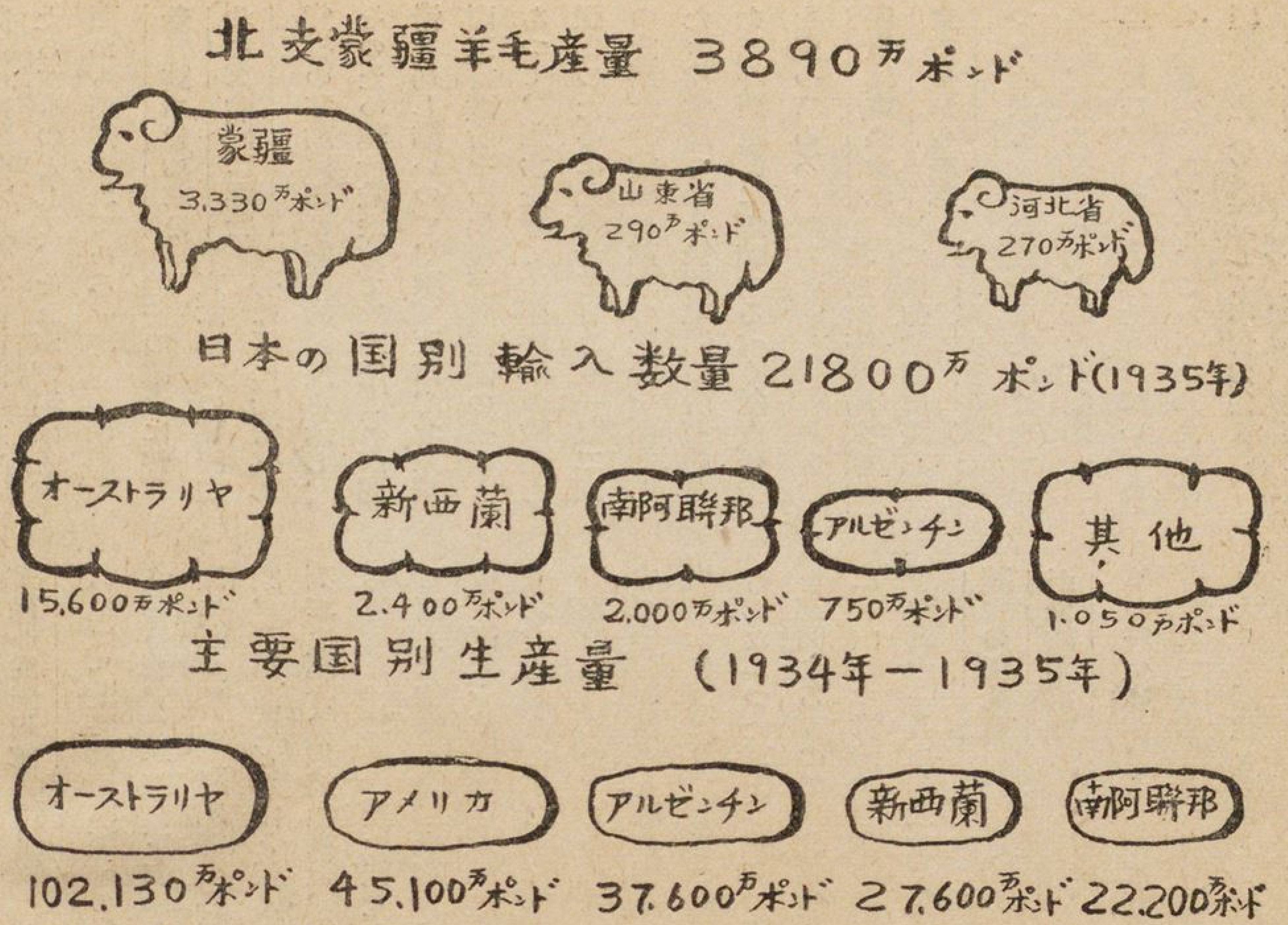
北京における邦人の人口增加率は渡支制限により相當の影響を受けてゐるが依然として邦人の進出は物凄く、九月一日現在における戸數二萬六千百九十八戸、人口六萬九千八百三十五名を算へ、前月の六萬八千四百七十九名に比較すると千三百五十六名の增で、一日平均約四十五名づゝの增加を示してゐる。內地人は邦人總人口の大部分を占め、五萬二千八百四十七名、半島人は一萬六千四百餘名、臺灣人は僅かに五百名足らずである。內地人を男女別に見ると、

男大人二萬七千四百四十五名、小人五千二十一名で女は約半數の大人一萬五千二百九十名小人五千九十一名となつて居り、嫁一人に婿二人と云ふ勘定になる。



羊毛

北支・蒙疆の統計4



「裸で道中がなるものか」といふ俗諺の様に、如何に精鋭なる兵器があつたところで、裸體で戰爭は出來ない。ところで軍隊の用ゐる被服として、何が一番適してゐるかと云ふと強靱で保溫力が強く、雨水を彈く性質のある羊毛位適したものは今のところないであらう。日本における最近の羊毛消費高を見ると、二億二千萬ポンドの多額に上つてゐる。これを頭數に割當てて見ると一頭八ポンド平均として驚くなかれ二千七百五十萬頭の緬羊を必要とするのだ。然るに國内の現存數は僅か內鮮合せて三萬五千頭に過ぎないほどの貧弱さである。北支蒙疆全體の飼育頭數は一千二百萬頭、羊毛は三千九百萬ポンドで、全支產額の七〇%を占めてゐる。以前は外蒙から隨分多量の羊毛が沙漠を通つて張家口に移出されたが、いまはソ聯軍の防寒具を作るために來なくなつた。

また青寧地方からは、四肢もそのままの羊の皮に羊毛を詰め、その腹部の縫ひ口を上に幾つも〳〵繋いだ皮の筏を作り、これに五、六人もが乘つて黃河を下つて、包頭の市場へ賣りに來る毎年この季節になると包頭の街は羊毛賣を待ちかまへる女達で賑ふ。これらの羊毛は事變前には張家口を經て天津に集まり、その大部分はアメリカとドイツへ輸出され、日本へは少量のカシミヤ毛の外は殆ど輸出されてゐなかつた。しかし日本では羊毛輸入數量の七一%を占むる濠洲よりの輸入が懸念される今日この氣候風土に適した蒙古羊毛をうんと利用しなくてはならない。

そこで必要となつてくるのは現地指導による品質の改良と增產、工場設備等の改善である。現在蒙疆政府當局では質をよくするためイギリス系の優秀な羊を輸入して、よき第二世を作ることや、保護、增殖のため牝羊の屠殺を禁止するやら、胎兒の强制保護、牡の移輸出制限等の對策を講じてゐる。現在蒙古の羊毛は一頭當り一ケ年二ポンド內外に過ぎないのであるが、改良すれば六ポンド乃至八ポンドまで向上する。

なにはともあれ蒙古羊毛の前途は明るい。

昭和十五年十月十五日印刷納本
昭和十五年十一月一日發行

十一月號
(每月一回一日發行)

編輯者 北京・華北交通株式會社 資業局資料課 加藤新吉
發行者 東京市麴町區三番町一 長谷川巳之吉
印刷者 小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社 大橋松雄
發行所 東京市麴町區三番町一 第一書房
振替東京六四二三番
電話九段(33)一四一五番・三三四四番

一册定價(停)三十錢(郵送料一錢五厘)
一ヶ年分 金三圓六十錢

廣告取扱
一手取扱所 大阪市西區京町堀上通一丁目二五 一新社 電話土佐堀九三九


NISSEN
痒い皮膚病に
ムナバールは化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して强力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。
【特徴】
一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。
一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。
一、品質純良にして約二六%の硫黄を含有す。
適應症
疥癬・頭癬・濕疹一切・白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰嚢頭癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性及皮膚諸疾患。
包裝
一〇瓦(瓶入)
二五瓦(〃)
一〇〇瓦(〃)
五〇〇瓦(罐入)
一〇〇〇瓦(〃)
日染
ムナバール
Munaval
ムナバール
製造元 日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町
發賣元 株式會社稲畑商店
大阪市南區順慶町二丁目

下痢に

吸著療法劑

アルシリン錠

アルシリン錠（銀炭末一分と鹽化銀珪酸四分とよりなる）は腸內の有害細菌を殺滅し、僞炎性物質を吸著解毒します。然も消化障碍その他の副作用のない點、理想的の治療藥です。

〔適應症〕 單純性下痢、腸內の異常醱酵及び腐敗、急・慢性腸カタル、鼓腸、有機性毒素或は食餌に因る中毒症、腸結核の下痢、腸チフス、赤痢等の下痢に實用せらる。

〔藥價〕 三〇錢・五〇錢・一圓・一圓八〇錢　知名藥店にあり。

製造發賣元　大阪市道修町　株式會社 武田長兵衞商店





昭和[illegible]年七月四日第三種郵便物認可　昭和十五年十月十五日印刷納本　昭和十五年十一月一日發行（毎月一回一日發行）第十八號

北支㊥定價三十錢